

## 2. 事業の概要

### (1) 主な教育・研究の概要

#### 神戸親和女子大学

#### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

##### 文学部 国際文化学科

国際文化学科では、本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たした上で、(1) 日本語運用能力や、英語・中国語のコミュニケーション能力を高め、異文化間交流を積極的に行う力、(2) 国際的な視野にもとづく批判力、判断力、課題解決力を備え、社会が抱えるさまざまな問題に積極的に関わっていく力、(3) ICT を利用し、国際社会に発信し、新しい情報社会に参画する力、を身につけ、次の①～③に掲げる専門的な資質能力のうち少なくとも1つを修得した者に対し学位を授与します。

- ① 日本語についての正しい知識や運用能力を高め、日本文化の文化的・歴史的背景を、人文学の方法論を用いて判断・理解することで、人や文化に深い関心と理解を持ち、自ら課題を設定・探究することができる。
- ② 国際共通語としての英語の理解力と表現力を高め、国際文化への正しい理解と心的態度の醸成を通じて、地球規模の共生社会に主体的に参加できる。
- ③ ICT についての専門的な知識・技能と、情報活用能力や情報倫理を身につけるとともに人文系の幅広い知識を学び、ICT の視点をもって、社会に関わる諸課題に対して人間中心的なアプローチで問題解決に取り組むことができる。

##### 文学部 心理学科

心理学科では、目指すべき人材像として、「心理学的な視点や手法を用いて様々な組織や企業の活動をサポートし発展に貢献できる人材、または心理臨床の知識と技術をもとに、自己及び人々の心身の健康と共感的で円滑な人間関係の構築に貢献できる人材」を掲げる。このような人材を養成するため、本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たした上で、次の①～④に掲げるねらいを達成した者に対し学位を授与する。

- ① 科学的、倫理的、合理的方法により人間を理解する力を身につけている。
- ② 心理学の研究方法ならびに、心理学全般の基礎知識を身につけている。
- ③ 心理学の学びを踏まえ、人々の価値観や信念、環境の多様性を理解し、様々な人々と関係性を構築する能力、連携・協働して社会で活躍できる能力を身につけている。
- ④ 心理学的な視点により、様々な組織、企業での活動を支える力（マーケティング力やリーダーシップなど）を身につけている。または、公認心理師や臨床心理士など心の専門家としての知識、技術、倫理観を身につけている。

##### 教育学部 児童教育学科

児童教育学科では、本学の課程を修め、卒業要件の単位修得と必修等の条件を満たした上で、子どもの教育と発達に関する専門的知識と技能を修得し、全人的な教養に裏打ちされた専門性と豊かな実践力を身に付けた教育・保育人材として、下記の専門的な能力・資質を身に付けた者に対して学位を授与します。

- ① 使命感と責任感をもって人間愛にあふれた教育・保育を実践することができる。
- ② 教育・保育に関する専門的知識や技能に基づいて主体的・創造的に思考し、判断し、表現することができる。
- ③ 豊かな社会性や人間関係形成力を養い、他者と協働することができる。
- ④ 教育・保育に関する国際的な視野をもって社会に貢献し、地域に根ざして活動することができる。

## 教育学部 スポーツ教育学科

スポーツ教育学科では、本学の課程を修め、卒業要件と必修等の条件を満たしたうえで、現代社会におけるスポーツの諸問題に対応する専門的知識と技能を有し、次世代を担う力を身につけ、次の①～③に掲げる専門的な資質能力のうち少なくとも一つを修得した者に対して学位を授与します。

- ① 学校教育、学校体育・スポーツについての専門的知識を有し、学校等での臨地調査・実習を通して、健康・スポーツに関わる教育活動を、企画・実践・探求することができる。
- ② スポーツ場面におけるパフォーマンス力の向上や心身の健康づくりに関する専門的知識を有し、学校、スポーツクラブ、福祉施設等の訪問、調査、ボランティアを通して、スポーツの指導を、企画・実践・探求することができる。
- ③ スポーツクラブ等の組織経営及び地域スポーツの活性化に関する専門的知識を有し、地域の健康・スポーツ関連機関・施設等の訪問、調査、ボランティアを通して、課題を発見するとともにその解決の手立てを企画・実践・探求することができる。

## 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

### 共通教育

本学の「共通教育」では、学士課程において総合的判断力をもち主体的に社会に対応できる能力を身につけることを目的とし、「ベイシック・スキル」、「リベラルアーツ」、「キャリアデザイン」、「日本語コミュニケーション（留学生）」に区分して科目を配置します。

その際に、学生の成長のための3つの基礎能力として、「英語等運用能力」、「情報活用能力」、「論理的文章構成力」の育成を重視します。

#### （1）教育内容

- ① 4年間の学修の基礎となる共通教育は、幅広い学問分野を展望し、全人的な教養を身につけるための諸科目で構成します。ベイシック・スキル、リベラルアーツに関する諸科目から20単位以上を修得します。共通教育科目群の中で「ベイシック・スキル」は全学生必修科目です。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「健康行動学」、「ICT基礎Ⅰ・Ⅱ」、「総合英語Ⅰ・Ⅱ」、「Interactive EnglishⅠ・Ⅱ」を配します。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、初年次教育の中心的な科目です。
- ② 英語教育科目は、上記「ベイシック・スキル」に配置するとともに、「リベラルアーツ」の中の「外国語コミュニケーション」にも配置します。
- ③ 「リベラルアーツ」では、「外国語コミュニケーション」「文化の中の人間」「現代社会と市民」「女性をとりまく社会」「生命と自然」「多文化を生きる」「情報リテラシー」の分野に分けて科目を配置し、専門教育を支える幅広い知識を身につけます。
- ④ 「キャリアデザイン」では、職業観・キャリアプランの形成や、採用試験の対策に向けた科目を配置しています。
- ⑤ 「日本語コミュニケーション（留学生）」では、留学生が日本語の基礎を学べる科目を配置します。
- ⑥ 学びの順序性、継続性、発展性を十分に配慮して教育課程を編成します。

#### （2）教育方法

- ① 学修内容や学生の学び方に対応させて、講義、演習、実習という授業形態を適正に配置します。
- ② 学生の主体的、探究的な学びを実現するため、アクティブ・ラーニングの方法を取り入れた授業を展開します。
- ③ 英語教育では、ネイティブスピーカーによるコミュニケーション力の育成を重視した教育を行います。
- ④ キャリアデザインの分野では、採用試験対策、現場で学ぶインターンシップなど、実践的な授業を展開します。

#### （3）教育評価

各科目の学修成果の評価は、シラバスに定める成績評価方法により行います。

本学科は、卒業認定及び学位授与の基本方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、共通教育科目及び専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行います。

### （１）教育内容

- ① 国際文化学科の専門教育（日本語・日本文化、国際コミュニケーション、情報コミュニケーション）に関する科目は、1年次より4年次まで基礎的なものから実践的なものへの発展的な学びとなるよう留意して、系統的、体系的に配置します。
- ② 国際文化学科の必修科目は、基本科目と演習科目によって構成します。基本科目として国際社会と日本文化への視野を広げるために「国際文化概論」「地域文化概論」「国際ボランティア論」「異文化コミュニケーション論」「東アジア文化論」「日本文化史」を配します。また、国際的な共通語である英語の基礎力をつける「TOEIC I・II」、ICT運用力を養う「情報とコミュニケーション」を置きます。さらに、必修の演習科目として、2年次には「国際文化基礎演習」を配し、専門分野の学修への足掛かりとします。3、4年次の「国際文化専門演習」では、自らの専門分野における探究的な学びを深めます。4年次の「卒業研究」は学修・研究の集大成として位置づけます。
- ③ 1年次より、日本語・日本文化コース、国際コミュニケーションコース、情報コミュニケーションコースに分けて専攻分野を見通したカリキュラムを構成します。日本語・日本文化コースでは、日本語・日本文化への理解を深める科目を配します。「日本語リーディング&ライティング I・II」では論文作成に向けた力を培い、また「日本文学概論」や「日本語教授法」など国語科教員養成、日本語教育資格取得に必要な科目を置きます。国際コミュニケーションコースでは、1年間の英語圏または中国への留学を実施します。併せて留学前、留学後に英語や中国語の高い運用能力を身につける科目を配します。情報コミュニケーションコースでは、ICTの知識とスキル、課題解決のための情報活用能力を身につけるための科目を配します。このために課題解決を学ぶ「プロジェクトベースドラーニング演習 I・II」を実施するとともに、「情報基礎論」「プログラミング I・II」などの知識やスキルを学ぶのに必要な科目を置きます。これらは国際文化学科の教育課程における基幹科目として設定します。
- ④ 日本語・日本文化コース、国際コミュニケーションコース、情報コミュニケーションコースの学びを深め、言語運用力や教育技能、ICTスキルを磨くために、発展科目を置きます。併せて、発展科目には学科共通科目としてキャリア支援科目群を設置し、観光ビジネス論など特定の産業における専門知識や見識を深めるための科目群を配します。1年次から開講するフィールドスタディ科目では、地域での活動調査を通じて、問題解決力、企画力など、実践力を育成します。
- ⑤ 教育課程編成の一つの特徴として、オンキャンパスの学びとオフキャンパスの学びの融合があります。オフキャンパス教育は、学外での主体的な体験活動、あるいは座学ではない体験的学修を旨とする教育です。各種の学外実習科目、海外研修科目などがこれに属します（各種のボランティア活動など、単位化されていないものも広義のオフキャンパス教育に含まれており、これらの活動に参加することを推奨します）。机上を離れて、大学を離れての主体的な活動による生きた学びを教育課程の一環として展開します。

### （２）教育方法

- ① 単位修得に必要な学習時間を確保するため、学生が1年間に履修することのできる総単位数を50単位未満に設定します。
- ② 学修内容や学生の学び方に対応させて、講義、演習、実習という授業形態を適正に配置します。
- ③ 学生の主体的、探究的な学びを実現するため、アクティブ・ラーニングの方法を取り入れた授業を展開します。
- ④ 学びの順序性、継続性、発展性を十分に配慮して教育課程を配列します。
- ⑤ 「フィールドスタディ I・II・III」のほか、海外研修科目（「長期留学 I・II」「海外語学研修」「日本語教育実習」など）をオフキャンパスの主要科目として配列します。
- ⑥ 学生の自己達成感、自己効力感を高めるため、また学修成果を可視化するため、「国際文化基礎演習 I・II」「日本語リーディング&ライティング I・II」「プロジェクトベースドラーニング演習 I・II」など一部の科目にふりかえりを行う教育方法を取り入れます。高等学校・中学校教諭一種免許状（国語）の教職科目については、学生自身が自らの学修過程をドキュメント化し、学びの自己確認をしながら学修成果を積み重ねていけるよう、「履修カルテ」を導入します。

### (3) 教育評価

- ① 履修科目の成績評価として、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を活用します。学生が自らの学習成績を的確に把握し、より適正な履修計画を立てることができるよう支援します。
- ② 4年間の学修の総まとめとして「卒業研究」（6単位、必修）を行い、学修成果の総括的評価を行います。

## 文学部 心理学科

本学科は、卒業認定及び学位授与の基本方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、共通教育科目及び専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行います。

### (1) 教育内容

- ① 心理学分野の専門教育に関する科目は、1年次より4年次まで基礎的なもの（概論など）から専門的なものへの発展的な学びとなるよう留意して、系統的、体系的に配置します。
- ② 心理学科の必修科目は、「基本科目」と「演習科目」によって構成されています。基本科目には、心理学の理解において必要となる基礎理論を学ぶ科目（臨床心理学概論、発達心理学概論、感情・人格心理学、学習・言語心理学、社会・集団・家族心理学、心理学的支援法）と基礎的な研究法や統計法を学ぶ科目を配しています（心理学実験・実習A・B、心理学研究法I）。次に演習科目は、ゼミ形式での少人数クラスでの授業を行います。2年次は「心理学基礎演習I・II」を配置し、専門分野の学修への足掛かりとなる基礎知識の習得を目指します。3、4年次では「心理学専門演習I・II・III・IV」を配置し、専任教員の指導の下、学生自らの興味関心に基づき研究を立案、実践し探究的な学びを深めていきます。そして「卒業研究」は4年間の学修・研究の集大成として位置づけています。
- ③ 選択科目は、「基幹科目」、「発展科目」、「学部内共通科目」で構成されています。基幹科目は、ビジネス・社会心理コースと公認心理師・臨床心理士コースに関連する科目で構成されています。ビジネス・社会心理コースでは、心理学の知見をもとに、マーケティングや組織を円滑にする人間関係の構築、自身の感情やストレスをコントロールする方法を学びます。また心理の学びがどのように社会とつながるのかを体験的、具体的に理解し、心理学の実社会での活かし方、応用可能性を学ぶことを目的としています。この目的を実行するために、「広告心理学」、「消費者心理学」、「産業・組織心理学」などといった科目を配しています。公認心理師・臨床心理士コースでは、公認心理師の資格取得を目指すとともに、学生が心理臨床の専門性を学び専門職として道を切り開くための力を身につけていくことを目的としています。この目的を実行するために、「精神疾患とその治療」、「公認心理師の職責」、「心理実習」などといった科目を配しています。また、2つのコースの両方に関連する科目として「発展科目」を設置し、「粧いの心理学」、「家族心理学」などの科目を配しています。「学部内共通科目」では、国際文化学科と心理学科の両学科の学生の進路やキャリア形成の特徴を踏まえた科目を配しています。「デザイン思考論」や「ビジネス心理学」などがこれに属します。
- ④ 教育課程編成の一つの特徴として、オンキャンパスの学びとオフキャンパスの学びの融合があります。学外での主体的な体験活動、あるいは座学ではない体験的学修を旨とする教育です。学外実習科目である「子ども実習」や「海外心理学研修」などがこれに属します（キッズオープンキャンパスへの参加、スクールサポーター体験、各種のボランティア活動など、単位化されていないものも広義のオフキャンパス教育に含まれており、これらの活動に参加することを推奨する）。机上を離れて、大学を離れての主体的な活動による生きた学びを教育課程の一環として展開します。

### (2) 教育方法

- ① 単位修得に必要な学習時間を確保するため、学生が1年間に履修することのできる総単位数を50単位未満に設定します。
- ② 学修内容や学生の学び方に対応させて、講義、演習、実習という授業形態を適正に配置します。
- ③ 学生の主体的、探究的な学びを実現するため、アクティブ・ラーニングの方法を取り入れた授業を展開します。
- ④ 学びの順序性、継続性、発展性を十分に配慮して教育課程を配列します。
- ⑤ 海外研修科目（「海外心理学研修」など）をオフキャンパスの主要科目として配列します。

### (3) 教育評価

- ① 履修科目の成績評価として、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を活用します。学生が自らの学習成績を的確に把握し、より適正な履修計画を立てることができるように支援します。
- ② 4年間の学修の総まとめとして「卒業研究」（6単位、必修）を行い、学修成果の総括的評価を行います。

## 教育学部 児童教育学科

本学科は、卒業認定及び学位授与の基本方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、共通教育科目及び専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実技、実習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行います。

### (1) 教育内容

- ① 児童教育学分野の専門教育（小学校教育、中学校教育（数学・英語）、幼児教育、保育、特別支援教育）に関する科目は、1年次より4年次まで基礎的なものから実践的なものへの発展的な学びとなるよう留意して、系統的、体系的に配置します。
- ② 児童教育学科の必修科目は、基本科目と演習科目によって構成します。基本科目として「教育原理」、「教職論」、「教育社会学」、「教育心理学」、「特別支援教育入門」、「教育方法・技術論」、「教育相談」、「人権教育」を配します。演習科目として、2年次には「児童教育学基礎演習」を配し、専門分野の学修への足掛かりとします。3、4年次の「児童教育学専門演習」では、自らの専門分野における探究的な学びを深めます。4年次の「卒業研究」は学修・研究の集大成として位置づけられます。
- ③ 1年次より、小学校・中学校教育コース、小学校教育プラスコース、幼児教育・保育コースに分けて専攻分野を見通したカリキュラムを構成します。小学校・中学校教育コース、小学校教育プラスコースでは、小学校教育に関する科目を中心とし、中学校数学もしくは中学校英語に関する科目、特別支援教育に関する科目、幼児教育に関する科目のいずれかを加えて配します。幼児教育・保育コースは、幼稚園教育に関する科目及び保育士養成科目に関する科目を配します。これらは児童教育学科の教育課程における基幹科目として設定します。
- ④ 教育課程編成の一つの特徴として、オンキャンパスの学びとオフキャンパスの学びの融合があります。オフキャンパス教育は、学外での主体的な体験活動、あるいは座学ではない体験的学修を旨とする教育です。各種の学外実習科目、海外研修科目などがこれに属します（プレイルームでの保育体験、スクールサポーター体験、各種のボランティア活動など、単位化されていないものも広義のオフキャンパス教育に含まれており、これらの活動に参加することを推奨します）。机上を離れて、大学を離れての主体的な活動による生きた学びを教育課程の一環として展開します。
- ⑤ 発展科目に位置づけられている「海外教育事情」は、原則英語によって行われる授業です。

### (2) 教育方法

- ① 単位修得に必要な学習時間を確保するため、学生が1年間に履修することのできる総単位数を50単位未満に設定します。
- ② 学修内容や学生の学び方に対応させて、講義、演習、実技、実習という授業形態を適正に配置します。
- ③ 学生の主体的、探究的な学びを実現するため、アクティブ・ラーニングの方法を取り入れた授業を展開します。
- ④ 学びの順序性、継続性、発展性を十分に配慮して教育課程を配列します。
- ⑤ 海外研修科目（「海外芸術・教育研修」、「海外教育実地研究」、「米国教育研修」など）をオフキャンパスの主要科目として配列します。
- ⑥ 学生の自己達成感、自己効力感を高めるため、また学修成果を可視化するため、ふりかえりを行う教育方法を取り入れます。児童教育学科での学びの中心的な位置を占める教職科目については、学生自身が自らの学修過程をドキュメント化し、学びの自己確認をしながら学修成果を積み重ねていけるよう、「履修カルテ」を導入します。

### (3) 教育評価

- ① 履修科目の成績評価として、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を活用します。学生が自らの学習成績を的確に把握し、より適正な履修計画を立てることができるように支援します。
- ② 4年間の学修の総まとめとして「卒業研究」（6単位、必修）を行い、学修成果の総括的評価を行います。

## 教育学部 スポーツ教育学科

本学科は、卒業認定及び学位授与の基本方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、共通教育科目及び専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実技、実習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行います。

### （1）教育内容

- ① スポーツ教育学分野の専門教育（身体教育学、スポーツ科学、応用健康科学）に関する科目は、1年次より4年次まで基礎的なものから実践的なものへの発展的な学びとなるよう留意して、系統的、体系的に配置します。
- ② スポーツ教育学科の必修科目は、基本科目と演習科目によって構成します。基本科目として「スポーツ教育学総論」、「スポーツ統計学」、「教育学概論」、「スポーツ原理」、「スポーツ政策論」、「ジュニアスポーツ指導者論」、「運動発達心理学」を配します。演習科目として、2年次には「スポーツ教育学基礎演習」を配し、専門分野の学修への足掛かりとします。3、4年次の「スポーツ教育学専門演習」では、自らの専門分野における探究的な学びを深めます。4年次の「卒業研究」は学修・研究の集大成として位置づけます。
- ③ 1年次より、学校体育・スポーツ教育コース、スポーツ心理・健康福祉コース、生涯スポーツ・マネジメントコースに分けて専攻分野を見通したカリキュラムを構成します。学校体育・スポーツ教育コースは、中学校・高等学校の保健体育教育に関する科目を中心として、体育・スポーツ諸科学に関する科目を配します。スポーツ心理・健康福祉コースは、運動を中心とした人々の心身の健康づくりに関する科目を中心として、体育・スポーツ諸科学に関する科目を配します。生涯スポーツ・マネジメントコースは、地域スポーツやスポーツの組織・組織運営に関する科目を中心に、体育・スポーツ諸科学に関する科目を配します。これらはスポーツ教育学科の教育課程における基幹科目として設定されています。
- ④ 教育課程編成の一つの特徴として、オンキャンパスの学びとオフキャンパスの学びの融合があります。オフキャンパス教育は、学外での主体的な体験活動、あるいは座学ではない体験的学修を旨とする教育です。各種の学外実習科目、海外研修科目などがこれに属します（各種のボランティア活動など、単位化されていないものも広義のオフキャンパス教育に含まれており、これらの活動に参加することを推奨します）。机上を離れて、大学を離れての主体的な活動による生きた学びを教育課程の一環として展開します。

### （2）教育方法

- ① 単位修得に必要な学習時間を確保するため、学生が1年間に履修することのできる総単位数を50単位未満に設定します。
- ② 学修内容や学生の学び方に対応させて、講義、演習、実技、実習という授業形態を適正に配置します。
- ③ 学生の主体的、探究的な学びを実現するため、アクティブ・ラーニングの方法を取り入れた授業を展開します。
- ④ 学びの順序性、継続性、発展性を十分に配慮して教育課程を配列します。
- ⑤ 海外研修科目（「海外スポーツ教育・文化研修」など）をオフキャンパスの主要科目として配列します。
- ⑥ 学生の自己達成感、自己効力感を高めるため、また学修成果を可視化するため、ふりかえりを行う教育方法を取り入れます。スポーツ教育学科での学びの中心的な位置を占める教職科目については、学生自身が自らの学修過程をドキュメント化し、学びの自己確認をしながら学修成果を積み重ねていけるよう、「履修カルテ」を導入します。

### （3）教育評価

- ① 履修科目の成績評価として、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を活用します。学生が自らの学習成績を的確に把握し、より適正な履修計画を立てることができるように支援します。

- ② 4年間の学修の総まとめとして「卒業研究」（6単位、必修）を行い、学修成果の総括的評価を行います。

## 入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

### 文学部 国際文化学科

国際文化学科では、日本語運用能力や、英語・中国語のコミュニケーション能力を高め、異文化間交流を積極的に行う力、社会が抱えるさまざまな問題に積極的に関わる力、ICTを利用し、新しい情報社会に参画する力を持った人材を育成することを目的としています。学生には、「論理的文章構成力」、「英語等運用能力」、「情報活用能力」、「問題発見・課題解決力」の4つの基礎能力を求めます。そのため、国語科教員や日本語教員、公務員として、さらには航空業界やIT業界など様々な民間事業所で活躍したいという強い意志があり、同時に、以下の点を満たしている人に入学して欲しいと考えています。

- ① 「国語」や「英語」の基礎的な学力が身につけている人。探求・体験学習やプレゼンテーションに強い関心を持っている人はなおよい。
- ② 部活動などの課外活動に積極的に取り組んでいる人。ボランティア活動などに高い関心を持っている人はなおよい。
- ③ 日本語の力や英語・中国語の力で自身の人生を切り拓こうと考えている人。
- ④ 情報通信技術に関心があり、コミュニケーションの中で活用する力を身につけたい人。

### 文学部 心理学科

心理学科では、その専門知識を活用し、自分自身や他の人々の心身の健康と良好な人間関係の構築に貢献できる人材を育成することを目的としています。

心理学は、一般にイメージされるよりもずっと広い領域やテーマを扱います。したがって、学生には、心理学の専門的知識を学修するとともに、柔軟性や広い視野を持ち、様々なことを積極的に学ぶことを求めます。

そのため、心理学科では、将来心理学で学んだ知識や手法で社会に貢献したいという強い意志があり、同時に、以下の点を満たしている人に入学してほしいと考えています。

- ① 専門的知識を学ぶ前提として、基礎学力をしっかりと身につけている人。
- ② 日々の生活における人の内面や行動に関心を持っている人。あるいは、子どもの内面やその成長に関心を持っている人。
- ③ 悩んでいる人たちに寄り添い、その役に立ちたいと思っている人。

### 教育学部 児童教育学科

児童教育学科では、子どもの教育と発達に関する専門的知識と技能を持った実践力のある人材を育成することを目的としています。

学生には、子ども理解や教育・保育方法に関する理論を学ぶとともに、行事やボランティア活動に参加したり、異文化交流などにも積極的に参加することも求めます。

そのため、児童教育学科では、幼稚園・小学校・中学校（数学・英語）、特別支援学校の教員、あるいは保育士になりたいという強い意志があり、同時に、以下の点を満たしている人に入学してほしいと考えています。

- ① 専門的知識を学ぶ前提として、基礎学力を幅広く身につけている人。より得意な分野があればなおよい。
- ② 部活動などの課外活動やボランティア活動などに積極的に取り組んでいる人。
- ③ 他者を尊重し、理解し、交流を図ろうとする積極的な姿勢を持っている人。

## 教育学部 スポーツ教育学科

スポーツ教育学科では、現代社会におけるスポーツの諸問題に対応する専門的知識と技能を有し、次世代を担う人材を育成することを目的としています。

学生には、学校体育・スポーツに関すること、スポーツパフォーマンスの向上や心身の健康づくりに関すること、スポーツクラブ等の組織経営、スポーツ文化の発展などに関することを専門的に学ぶことを求めます。また、スポーツ関連施設への訪問やボランティア活動に積極的に参加することを求めます。

そのため、スポーツ教育学科では、将来、教職やスポーツ指導員、生涯学習の現場、あるいはスポーツ産業で活躍したいという強い意志があり、同時に、以下の点を満たしている人に入学してほしいと考えています。

- ① 入学後の学修に必要な基礎学力と、体育における実技能力をしっかりと習得している人。
- ② 対象者に合わせたスポーツ教育を理論と実践指導から学びたい人。
- ③ スポーツマネジメントについて、イベントの企画・運営やボランティア活動などを通して理論と実践の両面から学びたい人。

## 通信教育部

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

通信教育部は「主として通信教育の方法による教育を受ける機会の拡充と、総合的判断力を持ち主体的に社会に対応できる人間を育成すること」を目的として開設され、教育課程におけるテキスト並びにスクーリングによる学修と学外での実習、さらには課程外における実践的活動とを総合的に結びつけ、課題解決力や企画構成力を涵養するとともに、コミュニケーション力・表現力を育むことをめざします。

教育学部の教育目標は、「豊かな教養と専門的知識を持ち、他の人々と協力して人間の発達と教育にかかる課題に取り組み、その解決に持続して努力できる人材、さらにそのような協働の活動においてイニシアティブのとれる人材を育成する。」であり、当該目標に照らして各学科において定められたねらいを達成することを課程修了の要件とします。

また、学位は、各学科の教育目標を達成するために設定された科目を履修し、必要単位を修得した者に授与します。

学科の学位授与の方針は、次のとおりです。

児童教育学科では、本学の課程を修めるために定める必修科目、選択必修科目を含めて必要となる単位数を修得し、卒業要件を満たしたうえで、本学科が掲げる教育目標である「子どもの教育と発達に関する専門的知識と技能をもった実践力のある人材を育成する。」に準拠して、次に挙げる専門的な資質能力を身に付けた者に対し学位を授与します。

- ① 使命感と責任感をもって人間愛にあふれた教育・保育を実践することができる。
- ② 教育・保育に関する専門的知識や技能に基づいて主体的・創造的に思考、判断し、表現することができる。
- ③ 豊かな社会性や人間関係形成力を持ち、他者と協働することができる。
- ④ 教育・保育に関する国際的な視野をもって社会に貢献し、地域に根ざして活動することができる。

福祉臨床学科では、本学の課程を修めるために定める必修科目、選択必修科目を含めて必要となる単位数を修得し、卒業要件を満たしたうえで、本学科が掲げる教育目標である「社会福祉に関する専門的知識と技能を持った人材、とりわけ、人々と共生の福祉の心を持った人材を育成する。」に準拠して、次に挙げる専門的な資質能力を身に付けた者に対し学位を授与します。

- ① 社会福祉の原理・思想を理解し、社会福祉専門職として必要な知識・技術・価値を体現することができる。
- ② 子どもから障がい者、高齢者等における対人援助の重要な知識や専門的な技能をもって社会福祉

専門職として活動することができる。

- ③ 地域社会における社会活動に積極的に貢献することができる。

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

通信教育部では、卒業認定及び学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、共通教育科目群及び専門教育科目群を体系的に編成し、通信教育独自の学習方法であるテキスト履修科目と集中講義形式で開講するスクーリング履修科目との適切なバランスの下に、講義、演習、実技、実習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行います。

通信教育部児童教育学科の教育内容、教育方法、教育評価は次のとおりです。

#### （１）教育内容

- ① 学修の基礎となる共通教育科目群は、幅広い学問分野を展望し、全人的な教養を身につけるためのベイシック・スキル、コモン・センス、総合学習に関する諸科目で構成します。なお、共通教育科目群のベイシック・スキルのうち「通信教育入門」は必修科目です。
- ② 児童教育学分野の専門教育（児童教育、幼児教育、保育、特別支援教育）に関する科目は、基礎的なものから実践的なものへの発展的な学びとなるよう留意して、系統的、体系的に配置します。
- ③ 児童教育学科の必修科目は、基本科目と演習科目によって構成します。基本科目には、教育に関する基本的な知見を養う科目、教育という観点から心理学や人間の在り方にアプローチする科目を配します。また、3年次及び4年次に演習科目を配し、自らの専門分野における探究的な学びを深めます。
- ④ 児童教育学科の選択科目は、基幹科目と発展科目によって構成します。また、初等教育学コース、幼児教育学コース、保育学コース、学校心理学・教育学コースに分けて専攻分野を見通したカリキュラムを構成します。初等教育学コースは、小学校教育に関する科目を中心として、幼稚園教育に関する科目を配します。幼児教育学コースは、幼稚園教育に関する科目を中心として、小学校教育に関する科目を配します。保育学コースは、保育士養成科目及び幼稚園教育に関する科目を配します。学校心理学・教育学コースは、児童及び幼児の心理学と教育学に関する科目を中心に配します。
- ⑤ 教育課程編成の一つの特徴として、オンキャンパスの学びとオフキャンパスの学びの融合があります。オフキャンパス教育は、学外での体験的学修や主体的な体験活動を旨とする教育です。各種の学外実習科目がこれに属します。また、日常生活における専攻分野に関連する主体的な活動等も通信教育部の生きた学びの一環です。

#### （２）教育方法

- ① 学修内容や学生の学び方に対応させて、通信教育独自の学習方法であるテキスト履修科目と集中講義形式で開講するスクーリング履修科目により、講義、演習、実技、実習という授業形態を適正に配置します。
- ② 学生の主体的、探究的な学びを実現するため、スクーリング履修科目ではアクティブ・ラーニングの方法を取り入れた授業を展開します。
- ③ テキスト履修科目の主体的な学習により、基本的知識の習得をめざします。また、テキスト履修科目では、教員によるレポート添削、所見の記入及び学生からの「質問票」への回答により対話的学修が可能です。
- ④ 学びの順序性、継続性、発展性を十分に配慮して教育課程を配列します。
- ⑤ 児童教育学科での学びの中心的な位置を占める教職科目については、学生自身が自らの学修過程をドキュメント化し、学びの自己確認をしながら学修成果を積み重ねていけるよう、「履修カルテ」を導入します。

#### （３）教育評価

- ① 各科目の成績評価基準を「学習の手引き」に明示し、その基準に基づいて成績評価を行います。
- ② 成績評価の指標としてGPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を活用し、学生は自らの学習成果を数値によりの確に把握でき、より適正に学習計画を立てることが可能です。

通信教育部福祉臨床学科の教育内容、教育方法、教育評価は次のとおりです。

### (1) 教育内容

- ① 学修の基礎となる共通教育科目群は、幅広い学問分野を展望し、全人的な教養を身につけるためのベイシック・スキル、コモン・センス、総合学習に関する諸科目で構成します。なお、共通教育科目群のベイシック・スキルのうち「通信教育入門」は必修科目です。
- ② 福祉臨床学科の専門教育（社会福祉）に関する科目は、基礎的なものから実践的なものへの発展的な学びとなるよう留意して、系統的、体系的に配置します。
- ③ 福祉臨床学科の必修科目は、基本科目と演習科目によって構成します。基本科目には、社会福祉に必須の専門知識と方法・技術の修得並びに地域の福祉諸問題への対応にかかわる基本的な知見を養うための科目を配します。また、3年次及び4年次に演習科目を配し、自らの専門分野における探究的な学びを深めます。
- ④ 福祉臨床学科の選択科目は、基幹科目と発展科目によって構成します。また、社会福祉士国家試験指定科目を中心に配します。
- ⑤ 教育課程編成の一つの特徴として、オンキャンパスの学びとオフキャンパスの学びの融合があります。オフキャンパス教育は、学外での体験的学修や主体的な体験活動を旨とする教育です。各種の学外実習科目がこれに属します。また、日常生活における専攻分野に関連する主体的な活動等も通信教育部の生きた学びの一環です。

### (2) 教育方法

- ① 学修内容や学生の学び方に対応させて、通信教育独自の学習方法であるテキスト履修科目と集中講義形式で開講するスクーリング履修科目により、講義、演習、実習という授業形態を適正に配置します。
- ② 学生の主体的、探究的な学びを実現するため、スクーリング履修科目ではアクティブ・ラーニングの方法を取り入れた授業を展開します。
- ③ テキスト履修科目の主体的な学習により、基本的知識の習得をめざします。また、テキスト履修科目では、教員によるレポート添削、所見の記入及び学生からの「質問票」への回答により対話的学修が可能です。
- ④ 学びの順序性、継続性、発展性を十分に配慮して教育課程を配列します。

### (3) 教育評価

- ① 各科目の成績評価基準を「学習の手引き」に明示し、その基準に基づいて成績評価を行います。
- ② 成績評価の指標としてGPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を活用し、学生は自らの学習成果を数値によりの確に把握でき、より適正に学習計画を立てることが可能です。

## 入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

通信教育部は、「通信教育の方法による教育を受ける機会の拡充と、総合的判断力をもち主体的に社会に対応できる人間を育成すること」を目的としており、印刷教材等による授業であるテキスト履修科目では自主的自律的に学習すること、面接授業であるスクーリング履修科目では積極的能動的に受講することを求めます。

そのため、通信教育部では、児童教育または社会福祉を学ぼうとする意欲があり、同時に、以下の点を満たしている人に入学してほしいと考えています。

- ① 専門的知識、技能を学ぶ前提として、入学後の学びに必要となる基礎的教養を幅広くしっかりと身につけている人。
- ② 学習と生活とのバランスを取り、持続的に学ぼうとする強い意志がある人。
- ③ 他者を尊重、理解し協同しようという姿勢を持っている人。

## **大学院 文学研究科 心理臨床学専攻**

### 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大学院心理臨床学専攻では、本大学院の教育目的を達成するために設定された科目を履修し、基準となる単位数を修得した上で、本専攻が教育目標として掲げる、以下に示す3つの専門的な資質能力を通じて専門的職業に寄与できる者に対し学位を授与します。

- ① 心理臨床に関わる領域あるいはその近接領域に関わる領域の幅広い高度な知識を習得し、活用できる。
- ② 心理臨床実践の経験を豊富にもち、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働等分野で実践できる。
- ③ 研究能力を高め、専門的知識に裏付けられた修士論文を作成できる。

### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本心理臨床学専攻では、修了認定・学位授与の基本方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、専門分野の学問を専門的に深く学ぶための専門教育科目群を体系的に編成し、講義、演習、実習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行います。

#### （１）教育内容

- ① 心理臨床に関わる領域あるいはその近接領域に関わる領域の幅広い高度な知識の習得のため、必修科目として「臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ」、「臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）・Ⅱ」、「臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）・Ⅱ」を配します。また、選択必修科目として「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習A）」、「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習B）」、「心理学研究法特論」、「心理学統計法特論」、「神経心理学特論」、「学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）」、「認知行動療法特論（心理支援に関する理論と実践）」、「社会心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）」、「対人行動学特論」、「コミュニティ心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）」、「司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）」、「精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」、「精神保健学特論（心の健康教育に関する理論と実践）」、「福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）」、「心理療法特論」、「発達臨床心理学特論」、「投影法特論」を配します。
- ② 心理臨床実践の経験を豊富にもつため、必修科目として「臨床心理基礎実習」、「臨床心理実習Ⅱ」、「相談指導Ⅰ・Ⅱ」を配し、学内（心理・教育相談室）及び学外（病院・施設）での実習を数多く取り入れ、事例の発表と検討（ケースカンファレンス）を通して、実践活動の深化を図ります。
- ③ 研究能力を高めるため、必修科目として「特別研究Ⅰ・Ⅱ」、「心理臨床学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を配し、1年次より集団指導の段階から個別指導へ移行する中で、院生が呈示する研究テーマと研究計画に基づいて、「心理学研究法特論」、「心理学統計法特論」などで習得した専門知識に裏付けられた修士論文の作成を図ります。

#### （２）教育方法

- ① 幅広い専門知識の修得のため、バランスを考え、院生が単位修得に必要な学習時間を確保できるよう必修科目と選択科目を設定します。
- ② 心理臨床の実践力を身に付けるため、臨床心理士及び公認心理師に必要な基本的スキルと態度の体得、さらに心理相談業務の把握と実践的スキルの修得ができるよう実習内容を設定します。
- ③ 研究能力を高めるため、1年次前半の集団指導では卒業論文の発表を通じて、研究における科学性と臨床における個別性との関連性について理解を進め、個別指導では各院生の設定したテーマ・研究方法・データ分析の適切性を検討し、各院生が質の高い修士論文を完成できるよう「特別研究」、「心理臨床学演習」を設定します。

#### （３）教育評価

- ① 履修科目の成績評価として、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を活用します。院生が自らの学習成績を的確に把握し、より適正な履修計画を立てることができるよう支援します。
- ② 修士論文の評価は、修士論文ルーブリック評価基準に従い、各評価項目のA評価・B評価・C評価・D評価の程度によって、大学院担当教員の合議の上、決定します。

### 入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

心理臨床学専攻では、学部における教育に関する一般的及び専門的教養の基礎の上に、心理学を教授し、深広な学識と研究能力を養うとともに、心理学に関する高度な専門的知識を有する臨床心

理士及び公認心理師の育成を目的としています。

院生には、広汎で多様な専門科目の習得を求めています。また、そのために、基礎学力や一般教養をはじめ、人間に対する強い探究心と深い理解力、豊かな共感性を求めています。

そのため、臨床心理士及び公認心理師になりたいという強い意志があり、同時に、次のような人に入学会してほしいと考えています。

- ① 心理学に関する専門的教養を身に付けている人。
- ② 研究に対する積極性と臨床実践への熱意を持った人。
- ③ 臨床心理士及び公認心理師として生涯学習と自己成長に向けて努力する人。

## **大学院 文学研究科 教育学専攻**

### **修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

大学院教育学専攻では、本大学院の教育目的を達成するために設定された科目を履修し、基準となる単位数を修得した上で、本専攻が教育目標として掲げる、以下に示す3つの専門的な資質能力を通じて専門的職業に寄与できる者に対し学位を授与します。

- ① 学校教育を中心に教育が直面するさまざまな課題に適切に対応する高度な専門的知識を修得し、活用できる。
- ② 様々な教育現場において豊かな実践力と高度な指導力を備えた教育者となる。
- ③ 研究能力を高め、専門的知識に裏付けられた修士論文を作成できる。

### **教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）**

本教育学専攻は、修了認定・学位授与の基本方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、教育学分野、教育心理学分野、教育実践学・国際教育分野に関する専門的科目群を、深広な学識と研究能力を養えるように体系的に編成し、講義、演習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行います。

#### （1） 教育内容

- ① 豊かな研究能力を養うため、教育学専攻の基本科目を配します。「教育学演習」、「教育心理学演習」、「教育実践学・国際教育演習」が属します。
- ② 教育学分野の専門的科目群には、教育の本質と目的、内容と方法について教育学的に深めることができる科目を配置します。教育学的認識を深める科目として、「教育哲学特論」、「道徳教育特論」、「カリキュラム特論」、「教育方法学特論」、「教育社会学特論」、「教育行政学特論」、「臨床教育学特論」を配します。また、幼児教育の専門知識を深める科目として、「幼児教育学特論」、「幼児教育方法学特論 A（基礎）」、「幼児教育方法学特論 B（レッジョ・エミリア教育）」を置きます。
- ③ 教育心理学分野の専門的科目群には、子どもの発達と学習について心理学的に深めることができる科目を配置します。心理学的認識を深める科目として、「教育心理学特論」、「学校心理学特論」、「発達心理学特論」、「学校カウンセリング特論」、「学校心理臨床特論」を配します。また、教育心理学系の発展科目として、「心理教育アセスメント特論」、「生徒指導特論」、「教育研究法特論」、「障害児教育特論」、「身体教育学特論」を置きます。
- ④ 教育実践学・国際教育分野の専門的科目群には、教育実践を深める科目及び国際教育に関連する科目を配置します。教育実践学系列の科目として、「総合学習特論」、「スポーツ教育学特論 A」、「スポーツ教育学特論 B」、「メディア教育特論」、「ホリスティック教育特論」、「生涯福祉特論」を配します。また、国際教育系列の科目として、「日本語教育特論」、「日本語学特論」、「国際教育特論」、「海外教育実習」を配します。
- ⑤ 教育学分野、教育心理学分野、教育実践学・国際教育分野に関する高度な認識と豊かな教育研究能力を身に付けるために、「英書講読（教育学、教育心理学）」を開きます。
- ⑥ 専門的な学修と研究の集大成として、修士論文を作成します。そのための探究的な学びの授業として、「特別研究」を置きます。

## (2) 教育方法

- ① 幅広いかつ専門的な知識を修得するため、必修科目と選択必修科目をバランスよく設定し、院生が単位の修得に必要な学修時間を確保できるよう設定します。
- ② 教育学分野、教育心理学分野、教育実践学・国際教育分野のうち、一つの分野を選び、専門的に学修しますが、他の二つの分野を相補的に学修することによって、体系的に履修することができるようになります。
- ③ 研究能力を高めるため、各演習の授業においては、徹底した個別指導を行います。
- ④ 院生の主体的、探究的な学びを推進するため、アクティブ・ラーニングの方法を取り入れた授業を展開します。
- ⑤ 小学校教諭専修免許状、幼稚園教諭専修免許状、学校心理士資格を取得できるような教育課程を配列します。また、学部の授業科目を科目等履修生として履修することによって、日本語教員資格を取得できるようにします。

## (3) 教育評価

- ① 履修科目の成績評価として、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を活用します。院生が自らの学修成績を的確に把握し、より適正な履修計画を立てることができるように支援します。
- ② 修士論文の評価は、主査、副査によって行います。

## 入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

教育学専攻では、学部における教育に関する一般的及び専門的教養の基礎の上に、教育学を教授し、深広な学識と研究能力を養うとともに、教育に関する高度な専門的知識を有する職業人の育成を目指します。

院生には、主体的、探求的な学びに向け、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた学びに積極的に参加することを求めています。また、教育に関する様々な科目について、学際的な履修を求めています。

そのため、次のような人に入学してほしいと考えています。

- ① 教育に関する専門的教養を身に付けている人。
- ② 教育に関する高度な理論的・実践的研究に取り組む意欲を持った人。
- ③ 教育に関わる職業人を目指す意志を持つ人。

## **親和女子高等学校・親和中学校**

社会が求める知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性の涵養といった資質・能力を身につけることはもちろんのこと、人生100年時代をより豊かに生きるため、生涯にわたって自ら学習し、自己の能力を高め、働くことや地域や社会の課題解決のための活動につなげていくことが必要である。

また、変化の激しい時代を生き抜いていくためには、生涯にわたって質の高い学びを重ね、それぞれの立場や分野で成長し、新たな価値を生み出し、輝き続ける力を身につけることも求められる。その際、溢れる情報の中から必要な情報を読み取り、進歩し続ける技術を使いこなすことができるよう基本的な情報活用能力を身につけることも重要である。

- (1) 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力（確かな学力・豊かな心・健やかな体等）を育成する。
- (2) 基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- (3) 確かな学力を身につけさせ、数理解理解力及び情報運用能力を育成する。
- (4) 主体的に変化に対応しつつ、学んだ知識・技能を実践・応用する力、さらには自ら問題の発見・解決に取り組む力を育成する。
- (5) 他者を尊敬し、他者と協力して、物事を達成する態度と能力を育成する。
- (6) 伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度や、主体性・積極性・異文化理解の精神等を身につけてグローバルに活躍できる人材を育成する。

(2) 中期的な計画(教学・人事・施設・財務等)及び事業計画の進捗・達成状況

①第3次10年構想5ヵ年計画の検証

**神戸親和女子大学**

以下、第3次10年構想5ヵ年計画の検証を行う。

第3次10年構想5ヵ年計画項目	重点項目	検証評価
<p>1. 理念・目的に関する目標・計画</p> <p>(1) 理念・目的を検証し、大学の施策に反映させる。</p> <p>(2) 理念・目的を達成するための事業を計画,実施する。</p> <p>(3) 理念・目的を周知・公表し、関係者で共有する。</p>	<p>(1) 大学の設置理念を実現する方策を検討し大学の将来構想等に反映</p> <p>(2) SHINWA VISION の実現に向けて具体的な実行計画を策定する。</p> <p>(3) 大学の設置理念、校訓について、学長講話や教職員研修などを通じて、繰り返し説明し、学生、教職員の理解を深める</p>	<p>共学への移行に伴い、「神戸親和大学」としてビジョン、基本理念、コア・バリュー、パーパス(存在意義)、ミッションを新たに定め、周知・公表し、教職員等関係者で共有した(図1.)。学生への校訓等の周知は、基礎演習等の授業を通して周知している。また、パーパス及びビジョンの実現のために教育改革、カリキュラム改革を計画し、実施した。</p>

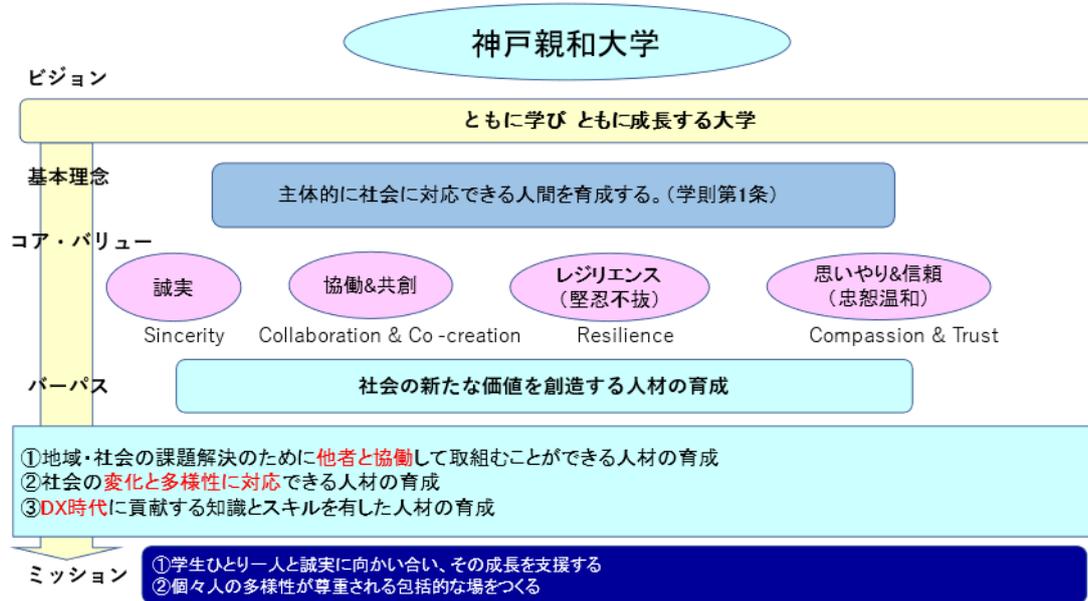


図1. 神戸親和大学のビジョン、パーパス、ミッションなど

第3次10年構想5ヵ年計画項目	重点計画項目	検証評価
<p>2. 教育課程に関する目標・計画</p> <p>(1) ディプロマポリシーを検証し、必要に応じて改正する。</p>	<p>学則、ディプロマポリシーに則り学生の育成ができたかどうかアセスメントポリシーにより検証。</p>	<p>アセスメントポリシーを策定し検証した。</p>

(2) カリキュラムポリシーを検証し、必要に応じ改正する。	ディプロマポリシーとの関連でカリキュラムポリシーを検証。社会の動向に応じてカリキュラムを見直す。	共学への移行に際してカリキュラム改革を実施した。
(3) 時代の変化に対応して教育課程の改革・改善を図る。	<p>共通教育改革の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 実践から学ぶ「社会の未来を創る」プログラム（2023年度より）の構築（インターンシップ、ボランティア、プロジェクト活動のプログラム化）。</li> <li>* 企業との連携、協働によるプログラムの創出。</li> <li>* 英語等運用能力、情報活用能力、論理的文章構成力の向上を目指したカリキュラム構成。</li> <li>* 「情報リテラシー」科目の充実（3科目追加）。</li> <li>* 各学科におけるカリキュラムの充実とカリキュラムの体系化。</li> <li>* 国際文化学科に新たなコース「情報コミュニケーションコース」を設置。</li> </ul>	<p>共通教育を改革</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 実践教育プログラム『SAIL』を構築し、インターンシップ、ボランティア、企業との連携プロジェクト活動を単位化。</li> <li>② 新たなキャリア教育「ワーク&amp;ライフデザインⅠ・Ⅱ」を2023年度より必修化する。</li> <li>③ 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」開設。</li> <li>④ 国際文化学科「情報コミュニケーションコース」開始。</li> <li>⑤ 高大連携科目「教育」、「探究」の設置。</li> </ul>
(4) 最新技術を活用して教育方法の改革・改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学生のICT活用能力の向上や学びの深化を目的とし、講義におけるICT活用の推進。</li> <li>* 授業内外のデジタル化の推進。</li> <li>* 教育効果の高いオンライン授業の開発。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① PC 必携化に伴い、講義内でのICT活用と授業内外のペーパーレス化、オンライン化を促進した。</li> <li>② デジタル化を推進するオンラインコア科目を設定した。すべてをオンラインで行う授業よりは、一部対面授業で行う授業が多かった。オンラインと対面の両方のメリットを活かすブレンド型のニーズが高い。</li> </ul>
(5) 大学院教育の充実。	* 公認心理師、臨床心理士合格者数の増加のための施策を実施。	受験のための対策講座を実施。
(6) 学生の適正な成績評価を可能とするシステムの構築。	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ポートフォリオの構築、学修成果の可視化。</li> <li>* ルーブリックによる評価の導入と検証。</li> </ul>	<p>ルーブリックによる評価を導入し、学生に周知している。</p> <p>ポートフォリオの構築のための学修システム導入が未整備。</p>
(7) 通信教育部カリキュラムに関する改革。	時代の変化に対応した通信教育カリキュラムの構築。	通信教育部学生の増加を目的とし、リカレント教育を組み合わせた通信教育の改革を構想中。
(8) 産学連携における教育の推進。	<p>連携企業との授業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* プロジェクトベースドラールニング（PBL）授業の更なる展開。</li> </ul>	地域企業（早駒運輸、フェリシモ）などとのPBLプロジェクトを実施し、商品化に至った。

<p>3. 教育研究組織の改編・拡充に関する目標・計画</p> <p>(1) 時代の変化に対応して学部・学科の改組・転換を図る。</p>	<p>*学部・学科の改組・転換、学科定員の再検討、大学院教育の充実などの計画の検証。</p> <p>*発達教育学部の教育学部への名称変更（2022年度より）。</p> <p>*国際文化学科情報コミュニケーションコース開設（2022年度より）。</p>	<p>2022年度より発達教育学部の教育学部への名称変更及び国際文化学科情報コミュニケーションコース開始。</p>
<p>(2) 地域における学び・研究のプラットフォームとして機能する。</p>	<p>大学が地域や大学関係者の学びや研究の拠点となるよう体制の整備。</p>	<p>日本・OECD 共同研究に参画し、教員・学生がプロジェクトの運営・実施に関わった。高大連携による「探究」カリキュラム開発研究チームの発足など、教育・研究のプラットフォームとして機能するための準備を進めた。</p>
<p>(3) 大学のグローバル化を目指した組織の充実を図る。</p>	<p>海外協定校との連携拡充</p> <p>*2022年9月から長春師範高等短期大学との連携プロジェクト「幼児教育における共同教育連携プロジェクト」（教員派遣）の実施。</p> <p>*オンライン海外研修の実施。</p> <p>*海外留学、研修、海外インターンシップの充実。</p> <p>*国際文化学科国際コミュニケーションコースの1年間海外留学の実施。</p>	<p>①長春師範高等短期大学との連携プロジェクトの開始。コロナ禍の影響で2023年9月より渡航。</p> <p>②レッジョ・エミリアとのオンライン海外研修の実施。</p> <p>③「海外芸術・教育研修」、「海外心理学研修」「特別派遣留学（カナダ）」「特別派遣留学（韓国）」は実施。</p> <p>④国際コミュニケーションコースの1年間海外留学のアイルランドヨーク大学で実施。</p>
<p>(4) 教育研究支援のための施策の充実を図る。</p>	<p>他大学、自治体、企業との連携による教育・研究の支援。</p>	<p>①日本・OECD 共同研究に参画し、教員・学生がプロジェクトの運営・実施に関わった。また、高大連携による「探究」カリキュラム開発研究チームの発足を展開した。</p> <p>②神戸学院大学との連携協定に基づき、学生・教員交流などを行った。</p>

<p>4. 教員・教育組織に関する目標・計画（教員人材確保、FD）</p> <p>(1) 教員組織の編成方針を見直し、策定する。</p>	<p>* 教員編成方針を見直し、改善し、長期計画及び改組転換計画に基づいた採用と教育課程の改革に対応した教員組織の検証と見直し。</p> <p>* 女性教員の割合を 50%に近づくように努める。実務家教員の割合は 30%を目途。教員の年齢構成の是正、50 歳以下の教員の割合を増加させるよう努める。</p>	<p>教員組織の検証、見直しについて、折々に実施しているが、中長期人事計画の策定には至っておらず、今後の課題。教員の年齢構成や男女比等の検討は引き続き必要。</p>
<p>(2) 教員の教育力の向上システムの充実を図る。</p>	<p>FD 等による教育方法の改善により教員組織を活性化。</p>	<p>FD 等の実施により、組織の活性化に努めた。</p>
<p>(3) 教員業績評価の充実を図る。</p>	<p>教員業績評価の処遇への反映。</p>	<p>教員活動評価の評価点の見直し、改善を図り、処遇への反映を目指した。</p>
<p>5. 学生の支援に関する目標・計画</p> <p>(1) キャリア支援体制を充実する。</p>	<p>* コロナ禍における不況に起因する就職難への支援。</p> <p>* 企業と連携した多様なインターシップの展開。</p> <p>* 出口イメージを明確化したキャリア支援とその広報新たな就職支援イベントの実施（親和公務員塾など）。</p> <p>* コロナ禍における WEB による支援体制の構築。</p> <p>* 企業との連携の強化。</p> <p>* 留学生の就職支援の拡充。</p>	<p>①国内外のインターンシップ拡充  (国内) 大学経由について、13 名が参加し、そのうち単位認定希望者は 11 名であった。今年度も新型コロナウイルス感染症により、途中で中断やWEBに変更する企業があったが、概ね対面で実施された。就職ナビサイトを利用して参加する学生が増加しているが、WEB を活用した実施形態に変更する企業が増えている。  (海外) 海外インターンシップについては、新型コロナウイルス感染症の影響から日本国外へ渡航すること自体が叶わず実施することができなかった。</p> <p>②就職支援</p> <p>【キャリア教育の充実】  2019 年度より、学科毎に社会で活躍する卒業生から、社会の現場の声を聞く機会として「職業講話」を 2 年次対象に実施し、低学年からの職業観の醸成に努めている。</p> <p>【留学生の就職支援の強化】  留学生対象の就職ガイダンスを国際・留学センターと連携して実施し、就職希望者への個別相談等の対応をした。</p>

<p>(2) 学生生活支援体制を充実する。</p>	<p>* 学生生活支援体制の検証と改善。  * 新たな給付型奨学金を導入。  * 障がいのある学生の支援策の充実。</p>	<p>① 共学への移行準備として学生生活支援の見直しを行った。食堂等。  ② 奨学金制度の拡充。  【学費支援】  ・学費支援制度は、免除・貸与ともに毎年選考を行い、執行している。  ・授業料免除奨学金→当該年度の授業料を免除する。毎年約5名を採用している。  ・授業料貸与奨学金→当該年度の授業料を貸与する。卒業後に貸与年数に応じて返還してもらう。毎年10名を採用している。  【社会・文化・スポーツ分野及び学業における優秀な学生の表彰】  神戸親和女子大学奨励奨学金規程に基づき、社会・文化・スポーツ分野において優秀な成績を残した学生を表彰している。また、学長賞として、GPAの上位者及び、TOEICスコア700点以上の者に対して、表彰を行っている。  【給付型奨学金（教員、公務員をめざす学生）の設置】  ③ 特別に支援を必要とする学生の支援。  ・障がいのある学生支援検討部会を学内に設置し、種々の問題に対応している。  ・具体的には、対象学生への面談や事後支援、またメンバー間の定期的な情報共有の機会を行っている。</p>
<p>(3) 学生の健康管理体制を充実する。</p>	<p>学生の健康管理体制の検証と改善。学生相談体制の充実。</p>	<p>学生相談体制の充実、留学学生への日本からのZoom相談実施。</p>
<p>(4) 課外活動支援体制を充実する。</p>	<p>* 課外活動支援体制の検証と改善。  * 強化スポーツクラブの充実。</p>	<p>共学への移行に伴い、男子学生の強化クラブを4クラブ設置。同時に一般クラブへの支援の充実を検討した。</p>
<p>6. 学生の受入れ（入試）の実施に関する目標・計画  (1) 入試制度の改革・改善、情報提供の充実を図る。</p>	<p>* 共学化、校名変更に対応した多様な広報活動。  * 入学者選抜方法の見直し・改善など入試制度の改革・改善・簡素化及び、受験生への情報提供の充実。</p>	<p>① 様々な広報戦略により共学への移行を周知徹底した。  ② 探究入試など新たな入試制度を導入するとともに改善を行った。  ③ 2023年度入試では、入学定員の1.2倍以上の学生が入学することとなった。</p>

	<p>*入学定員 1.1 倍の学生の確保。</p> <p>*2024 年度には目標在籍者数 170 人の留学生の受け入れ。</p> <p>*入試データの分析と有効活用。</p> <p>*兵庫県内を中心とした募集活動及び認知力強化。</p> <p>*アドミッションコミュニケーターとの連携強化。</p> <p>*コロナ禍における入学試験の在り方の検討。</p>	<p>④2024 年度に全学で 170 名の留学生の受け入れを目指し、2023 年度は 60 名以上の留学生を受け入れることとなった。</p> <p>⑤入試データの分析は入試終了時に行い、次年度の対策に活用する。</p> <p>⑥兵庫県からの入学者は 80-85%に及ぶので募集活動を集中的に行い、その成果が出たと考えている。</p> <p>⑦アドミッションコミュニケーターの研修会を行い、連携を強化した。</p> <p>⑧コロナ禍でオンライン入試を実施した。</p> <p>⑨アドミッションポリシーの明確化と周知徹底。      教学マネジメント会議でディプロマポリシー、カリキュラムポリシーとの整合性に留意しアドミッションポリシーを定め、Web ページや大学案内、入学試験要項等で受験生に周知徹底を図った。また、男女共学化に伴いアドミッションポリシーの見直しを行った。</p> <p>⑩Web 出願及びオンライン入試      2016 年度入試より全ての入試で Web 出願を実施している。予算に限りがあるが他大学と同様に入学手続きも Web で実施できるよう利便性を更に高めたい。また、コロナ禍の影響を鑑み、留学生入試は入国（中国から日本）できない受験生を対象に一部ではあるが「オンライン入試」を行った。実施内容にやや課題は残るが 10 数名程度の出願者に対して「小論文」「面接」の受験が実施できた。入学にも繋がっている。</p>
<p>(2) 多様な広報活動を展開し、募集活動の強化を図る。</p>	<p>*学科ごとの計画的、戦略的な広報活動の充実と展開。</p> <p>*出口イメージを明確にした発信（親和保育者養成塾、親和公務員塾等）。</p> <p>*高大連携としての継続的な高校出前授業や教育プログラムの提供。</p> <p>*親和女子高等学校との高大連携プログラムの開始（2023 年度より）。</p>	<p>①共学への移行に際し学科毎の魅力を発信する広報に努めたが、大きな変革を打ち出すのは今後の課題。</p> <p>②高大連携プログラム、特別連携協定校へのプログラム提供などを実施、準備した。親和女子高等学校との高大連携プログラムの準備。</p> <p>③「先生になるなら親和！」の再 PR 検討、準備。</p> <p>④SNS を利用した広報を実施してい</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「先生になるなら、親和！」の再PR。</li> <li>* SNS を活用した広報の展開。</li> <li>* 協定校、スポーツ協定校への学生募集活動の強化・拡充の徹底。</li> <li>* 高校訪問の成果・課題の検証と改善。</li> </ul>	<p>る。より充実した展開が必要。</p> <p>⑤高校訪問の成果の検証については入試結果データから検証し、次年度の訪問に活用している。</p>
<p>7. 教育研究環境の整備に関する目標・計画</p> <p>(1) 学生の成長を促す教育研究環境等の整備・拡充を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学生の成長を最大限支援するよう教育研究環境等を整備・拡充。</li> <li>* 電子資料を含めた図書館資料の拡充。</li> <li>* 学生の ICT 活用能力を向上、学びの深化を目的とし、必携パソコンの利用環境の整備、ネットワークの整備・増強、教室環境の整備・拡充。</li> <li>* 学園デジタル教育推進事業。</li> <li>* ラーニングコモンズの利用拡大。</li> <li>* 共学化に対応した環境の整備。</li> <li>* 新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底・充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学生の ICT 活用能力の向上をめざし、パソコンの利用環境の整備、ネットワークの整備・増強を行った。Wi-Fi 環境は格段に良くなった。</li> <li>②共学化に対応した環境の整備、トイレ、更衣室、保健室等を整備した。</li> <li>③新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底した。</li> <li>④ラーニングコモンズの活用はコロナ禍でグループワークの減少があり、難しかったが今後の活用につながる施策を検討することが課題。</li> <li>⑤2016 年 3 月に開設されたラーニングコモンズは、学習教育総合センターが主体となり、通常の自習利用の他、グループ予約として、学生主催の勉強会・発表準備・プレゼンテーションの他、教員主催の勉強会、学科・各部署主催の催しで利用、また、各種セミナーや学科行事等にも利用されている。2021 年度からは、毎週開催の英語検定対策ゼミ（3 級、準 1 級コース）や情報検索講座を実施し、2022 年度も継続した。2022 年度秋学期からは、更に「英語検定 2 級筆記対策講座」、「EnglishOnlyCafé」、「英語なんでも相談室」、英語多読本活用イベント「しんわ洋書の森スタンプラリー」「ICT スキルアップ講座」などを開催し、学生達にとって、語学力、ICT 活用能力向上の支援の場として定着することを目指している。</li> </ul>
<p>(2) 地域貢献、大学スポーツの振興を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* スポーツセンターを拠点とした大学スポーツの振興、地域貢献、地域連携センターによる地域貢献事業の展開。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域貢献スポーツ事業は少しずつ回復した。</li> <li>②共学への移行に対応したスポーツクラブの整備、特に強化クラブを 4 クラブ開設した。</li> </ul>

	* 共学化に対応したスポーツクラブの整備。	
(3) 世界基準の教員養成拠点として基盤強化を図る。	世界最先端の大学教育学部・附属校園と教育・研究に関するネットワークの構築。	オンラインでの交流等で繋がりを維持したが十分ではなかった。
(4) グローバル化に対応できる国際人育成のための教育環境を創出する。	国際人育成のための教育環境の整備（留学生との交流を含む）。	日本・OECD 共同研究に参画し、教員・学生がプロジェクトの運営・実施に関わり、国内外の学生や研究者、教員とのネットワークを構築した。
(5) 大学において研究倫理遵守の取組を進める。	規程に則り研究倫理遵守の取組を遂行、再確認。	研究倫理委員会や研修において取り組んだ。
8. 社会連携・社会貢献に関する目標・計画 (1) 自治体、企業、NPO との連携・協働を推進する。	* 自治体、企業、NPO、学校との連携・協働を推進する学内体制の強化。 * オンラインを利用した遠隔地との連携・協働。 神戸市北区、神戸電鉄、親和スポーツネットとの地域貢献事業の協力実施（子育て支援）。 * しあわせの村との連携に基づく地域貢献活動。 * 姫路ヴィクトリーナ、フェリシモ、早駒運輸、アンファーなどとの企業連携事業の展開。	①自治体や企業との連携協定を勧めた。 ②オンラインを利用した遠隔地の小学生との交流を児童教育学科で開始した。 ③地域貢献事業が復活し、学生の参加が増加し始めた。 ④フェリシモ、早駒運輸、アンファー、楽天モバイルなどとの企業連携事業を実施した。
(2) 地域住民の生涯学習機関としての機能を拡充する。	公開講座やリカレント教育の展開により、地域住民の生涯学習機関としての機能の拡充。	公開講座やリカレント教育を実施した。
(3) 高等教育機関としての機能強化を図るため、大学間連携を推進する。	* 海外の大学も含め国内外大学間連携の推進・強化。 * 大学間教育連携プログラムの充実（科目等履修制度を含む）。	大学間教育連携プログラムはコンソーシアム兵庫神戸の事業で本学も参画したが、利用学生は少数であった。
9. 大学の運営に関する目標・計画 (1) 機動的な大学運営ができるよう PDCA 実施体制により大学運営の改善改革を図る。	運営組織を検証し、ガバナンス体制を強化・改善。委員会の整理・合理化。	PDCA 実施体制の整備が出来ておらず、検証機能の充実が課題。 委員会の整理や合理化も課題。
(2) 適正な教職員数の確保を図る。	適正な教職員数と人件費支出計画の策定。	適正な教員数は人事を検討する際に議論するが、長期の人事計画の策定が今後の課題。
(3) 計画的かつ機動的な広報を行う。	広報に関する方針を策定し、機動的な広報の展開。	広報戦略室を学長の下に設置し、広報アドバイザー（1名）を2023年1月より雇用し機動的な広報戦略を展開しつつある。広報戦略委員会との連携も進めていく。

(4) 教職員の資質向上を図るため研修を充実する。	教職員研修の計画的実施。	FD、SD、教職員研修会等を実施。
(5) 大学の運営を支える事務組織を整備する。	事務組織の検証と改善。	共学への移行、事務組織改革が並行して行われた。
(6) 人権および個人情報保護の対策を強化する。	教職員の人権および個人情報保護に関する体制の検証と改善。	人権および個人情報保護に関する研修、およびそれらが阻害された場合の迅速な対応を取るようにした。個人情報保護について、社会の変化に対応した方策が必要。
10. 大学の財務に関する目標・計画		

<p>(1) 安定的な財務運営を図る。</p>	<p>*的確な見通しに基づく財政計画の策定。  *財務関係比率の改善（人件費比率の減少等）。  *大学の運営に必要な財政基盤の確立。  *寄附金募集活動の強化。  *研究資金等の外部資金を獲得。</p>	<p>①財政計画に基づいて安定的な財務運営を図るために、学生確保と支出抑制により財政基盤の確立を目指している。継続した対応が必要。寄付金募集活動についても、対応を続けていく。同窓生等を対象とした募金活動を促進する必要性がある。  ②外部資金に関する情報公開及び科研費申請にかかる学内説明会を実施し、外部資金獲得のための支援を実施している。  ③財務強化戦略  *3つの目標の計画的達成（帰属収支差額・人件費比率・教育研究費比率）2023年度当初予算の事業活動収支差額比率は大学単独で△7.5%、人件費比率は57.3%、教育研究費比率については39.5%であり、13年度（25.0%）との比較で14.5%改善した。  *事業と予算の「選択と集中」の実施。予算編成については、理事長から示達される予算編成方針に基づき事業担当部署が予算申請書を作成し、学長によるヒアリング・事前相談を経て、10年構想5ヵ年計画を達成するうえで重要と考えられる事業に重点配分するよう配慮し、予算原案としてまとめている。  *教職員の経営感覚の醸成  2016年度から、職員研修等において、法人より決算報告について説明するとともに、理事長講話、研修講演においても財政についてのテーマを取り上げ、大学執行部の教員に対しても決算報告の説明を行い経営感覚の醸成に努めている。</p>
<p>11. 内部質保証の体制に関する目標・計画  (1) 社会への説明責任としての内部質保証のための体制を整備する。</p>	<p>内部質保証のための体制整備。</p>	<p>内部質保証委員会において、体制を整備し、そのシステムを構築した。</p>
<p>12. 同窓会との連携に関する目標・計画  (1) 同窓会との連携強化を図る。</p>	<p>*同窓生相互のネットワーク強化。  *同窓会との定期的な連絡</p>	<p>2023年10月の同窓会開催目標に、すずらん会との連携と準備を開始した。</p>

	会の開催。 ＊同窓生の生涯学習の機会強化。 ＊同窓生の在学生へのキャリア支援。	
--	---	--

## <付記. 1> 共学化に対応した環境の整備

2023年度からの共学化及び大学名変更に伴い、次の工事を2023年2月中旬に着工し、3月下旬に完工した。

- ＊附属図書館1階閲覧室トイレ改修工事（工事費：2,950,000円）  
1階既存女子トイレについて、ブース・掃除流し等の撤去、洋便器・洗面化粧台・LED照明器具等の更新設置を行い、天井・壁・床等の改修を行った。
- ＊附属図書館1階閲覧室トイレ改修工事（工事費：2,750,000円）  
2階（既存女子トイレ）に男子トイレを新設するため、小便器の新設、洋便器・洗面化粧台・LED照明器具等の更新設置を行い、天井・壁・床等の改修を行った。
- ＊4号館1階男子トイレ改修工事（工事費：1,850,000円）  
既存洋便器1台を撤去し、小便器2台設置・洗面台更新移設等を行った。
- ＊クラブハウス1階男子トイレ改修工事（工事費：1,800,000円）  
既存洋便器1台を撤去し、小便器2台設置・洗面台更新移設等を行った。
- ＊1号館1階保健室（休養室）改修工事（工事費：1,350,000円）  
既存保健室（休養室）に間仕切壁・ドア等の設置を行った（ベッドを区切って個室化し、男女同時利用を可能にした）。
- ＊1号館地階ロッカー室改修工事（工事費：1,500,000円）  
既存ロッカー室を間仕切壁で仕切り、男子用ロッカー室及び女子用ロッカー室の設置を行った。
- ＊大学構内サイン改修工事（工事費：2,600,000円）  
構内各所のサイン（外壁文字/石銘板/各種サイン等）を「神戸親和大学」に変更し、旧ロゴマーク等の撤去を行った。

## 親和女子高等学校・親和中学校

### 1. 教育戦略

#### (1) 授業力の向上

授業評価アンケートを年に2回実施し集計しデータと生徒から寄せられたコメントを教員個々に返却し、授業改善につなげるよう啓蒙したが、当初の計画であった授業評価委員会による授業改善に向けた具体的方策の検討を行い、授業改善に努めるといった計画は実行できなかった。また、授業改善の一環として計画していた授業公開については、コロナ禍の影響で実施できず、活動としては後退した。大学入試で求められる学力、能力が変容する過程において、入試問題を組織的に研究し日々の授業、考査に生かす等の具体的な取り組みも積極的に進めていく必要がある。

#### (2) いじめ対応

2022年度については、いじめに該当する事案は生じていないが、過去のいじめと思われると相談のあった事例等を踏まえ、「いじめ防止基本方針」に改定を行う等の対応の見直しも行ってきた。基本方針に定める指導計画に沿って運用しているが、この指導計画（対策委員会での情報交換、生徒調査結果についての情報共有、また結果の校長への報告、防止に向けての研修会の実施）について、事案の有無に関わらず、形骸化させないような管理・運営が求められる。

#### (3) グローバル化への対応

海外研修の充実を図り、各プログラムの目的、成果検証と整理、国際教育委員会等、組織

的な運用に注力した。今後、チームとしての運用に向けて継続し改善を進める。

コロナ禍で全面的に停止していた海外研修も徐々に再開した。今年度は、中学3年生のニュージーランド研修とオーストラリア研修を成功裏に実施できた。続いて、異文化探究研修(タイ)、イギリス文化研修も再開に向けて準備中である。

(4) 高度情報化への対応

電子黒板やタブレット機器の活用等、ICT 学習環境の整備により、授業及び家庭学習での有効活用を推進した。定着してきたタブレット使用は、授業での利用のみならず、教員と生徒のコミュニケーションツールとしても有効活用できている。文部科学省の GIGA スクール構想を利用して、中学生全員分のタブレットも確保し、中高生全学年タブレットを持たせる環境を整備している。多種多様なアプリ教材があり、指導する側の研究と学校として最適な教材の選定について、委員会において方向性を出す必要がある。

学校と保護者との連絡ツールとして、新たなアプリの導入を決定した。従来のもより利便性に優れており、有効な手段としての定着を望む。

(5) アクティブラーニング型授業・探究学習の推進

大学入試でも求められる「思考力・判断力・表現力」の養成と「主体性・多様性・協働性」を高める学びとして、アクティブラーニング型授業・探究学習の推進にさらに努めた。アクティブラーニング等研究委員会を授業改善委員会に改編し、教員のさらなる授業力向上を目指したが、コロナ禍の影響で思うような運営ができなかった。今年度は、探究学習をさらに重視するために「探究推進部」を独立した部組織として設置し専任教員も3名配置した。外部団体とも連携し、探究授業の深化に努めた。三菱未来教育財団からの助成金 200 万円を活用し、メンターの採用や他校・企業との連携も拡大し活動できた。

(6) 生徒の学力向上のための方策の実行

生徒学力の二極化や個性の多様化に対応するための方策を検討し、中学2年生からの習熟度授業、高校1年生からの S コース細分化(SS, SL)を実施した。中学2年生の S コース分割(Sa, Sb, Sb)では、少人数制による教育効果が実証された。

外部の予備校と連携した講座「ハイレベル講座」は2年目を終えた。初年度に比べて対象学年は拡大したが、受講生の参加は伸びていない。学年により温度差もあり、学校として予備校と密接な連携のもと受講を促進する必要がある。ハイレベル講座に平行して、本校講師による「親和ゼミ」も英語と数学で開講した。両方とも通常の補習ではなく、普段授業を行っている教員以外の講師なので、生徒にとっては新鮮な感覚で取り組んでいる。「ハイレベル講座」「親和ゼミ」の講師と親和の教科担当教員との綿密な情報交換の機会を頻繁に持ち、生徒の学力向上に繋げたい。

(7) コースの特色化

学校グランドデザインに基づくコースの進路目標とその特色を明確にし、コース独自のプログラムを実施している。広報と連動し、コースの特長を広く訴求し、コースの求める生徒像に合致した生徒の受け入れ、教育課程の編成、生徒への指導を意識し進めた。

特に S コースは4回目の卒業生を送り出したが、コースの特性よりも学年の思いを中心とする流れが色濃く、改善に向けて学校全体で取り組んでいく必要がある。現在進めている在校生の S コースの改革も引き続き進める必要がある。

(8) 学習活動と部活動のあり方

文化・スポーツ庁が示す部活動ガイドラインに基づき、本校のめざす部活動におけるガイドラインを定めて運用している。それにより、適正な部活動の活動基準を設け、部活動と学習活動の均衡が保てるようにしているが、活動方針に沿った運営ができているか管理・検証が必要である。

制度改革にあわせてノークラブデー、準ノークラブデーの導入(週2回の休養日)と学習環境の整備を一体的に進めていく。

強化クラブ及び出張等が頻繁な特定のクラブの指導に関して、教員の勤務の負担軽減の観点、並びに広報的視点から技術指導者による指導を取り入れた。強化クラブ入部を目指して入学した生徒の成長を支援していくことと、指導内容等が適正に行われているかの確認も必要である。顧問や運動部指導者対象の指導における研修を実施する必要もある。

## 2. 生徒募集

#### (1) 入学者の確保

中学170名、高等学校50名の確保を目標とし、広報活動及び教育活動の充実に取り組んだ。結果としては、中学は136名で過去最低の前年度からさらに7名減らす結果になった。高校からの入学生は27名（内部進学5名除く）であった。「特進A」の入学者が3名と激減した。その原因を検証する必要がある。今年度も内部進学をせずに他校へ進学した生徒が10名に上った。この原因究明と対応策の実行が急がれる。

#### (2) 魅力あるコース・カリキュラムの検討

生徒数の確保という短期的な課題も重要であるが、変容する大学入試に柔軟に対応するコースの改編、教育課程の編成について検討を行った。現状のS、総合進学コースの2コース編成から、新たなニーズと学校の特色化の観点から、「スーパーサイエンス」「スティーム探究」「グローバル探究」の3コースに改編することを意思決定し、教育課程も新教育の展開とセットで改訂を行う計画にしている。高校においては、2020年4月に「国際コース」、2022年4月に高大連携、スポーツを軸とした「高校特進Bコース」を設置し、高校募集の強化を更に進めたが、それぞれのコースの特長がわかりづらく、受験生から魅力ある高校として受けとられていないこと、前提として、中学校や塾から紹介や推薦される状況にないことが低迷の原因であることを自覚して、広報戦略、教育改革に取り組む必要がある。

#### (3) イベントの充実

親和らしさをアピールし生徒募集に効果が高い文化祭・音楽会などの学校行事は、制限を設けながらも一般に公開するなどの発信に努めた。また、サマーオープンスクールやプレテスト、入試相談会、入試説明会などの入学に直結するイベントについても、前年度よりは拡大実施できた。オンライン個別相談など新たな方策も定着した。

#### (4) 塾との連携強化

多数の受験生を抱える塾を頻繁に訪問し情報交換に努めた。今後も、塾からのアドバイスにも真摯に耳を傾け、入試改革・教育改革につなげていく。「アップ教育企画」との連携による「ハイレベル講座」は生徒の学力向上に期待がもてる。制度としては整えたが、課題としては、学校と塾の連携により、内容をさらに充実させることにある。何よりも、この講座を学校側が強く推進するという姿勢が必要であり、教員もともに作り上げるという意識を持つことが求められている。

#### (5) スクールバスの効果

2022年度のスクールバス「西神便」の利用者は15名（2021年度は19名）、「三田便」の利用者は39名（2021年度は41名）であった。両バスルートがあるので、本校を受験・入学した生徒も多く、スクールバスがなければ生徒数は減少する。運行に多額の費用が発生するスクールバスであるが、有効な手段とも言える。

### 3. 進路指導

#### (1) 難関大学への進学率向上

2023年春、Sコース4期目の卒業生を送り出した。この学年は高校3年間、コロナ禍の影響を受け、生徒たちが思うような受験勉強に取り組めなかった学年である。昨年度に比べ、現浪計で国公立大学25名（前年度4名減）、関関同立大の合格実績は92名（前年度11名減）であった。難関大学では、大阪大学に4名合格した。受験に関して、生徒・保護者の安定志向は強く、指定校推薦の希望者が例年通り多かった。有名私立大学の推薦枠を数多く利用できたのはよかったが、同時に優秀な生徒の一部が、最後まで粘って国公立大学に挑戦しない状況も見られた。また、指定校推薦による進路のミスマッチや大学進学後の成績不振等による退学、進路変更等の事例もあるなど、大学との信頼関係の希薄化、本校の指定校枠の減少等にも影響が懸念される。指定校推薦入試の推薦の在り方について考え直す時期にきているとも考えられる。

ここ数年の国公立大の受験者数の減少が続いており、今後、次年度に向け課題を整理し、改善すべき点は整理し、学校グランドデザインに示す進路目標に基づく進路計画の策定と具体的なアクションプランの実行、進路指導部と学年で情報共有をし、生徒の個々の目標実現に向けて、学校として戦略的な受験指導を考えていく必要がある。

#### (2) 受験指導の強化

模擬試験成績の分析と課題をもとに生徒の弱点を浮き彫りにし、学年の教科担当と連携し、弱点の補強に努める等の指導力の強化が必要である。担任と生徒の進路に関する意見交換や

面談の実施を通じて、生徒のモチベーションの維持や生徒の興味関心を進路に実現させるなど、更なる高みへの導きなど、教員の受験指導力の向上も欠かせない。新しい大学入試の傾向や動向について、進路指導部が情報と具体的な指導法を提供し、勉強会を開催するなどの取り組みも必要となる。

また、難関大学対策を行う前提として、入試情報に加えて、教員の入試問題に関する知識も問われることになる。最新の出題傾向や適切な対策についての助言が行えるよう教材研究を行うため、教科が主体となり、共通テスト分析を行い、全教職員が情報共有できるような体制を整える必要がある。生徒の受験に取り組むモチベーション、意識を高めることも重要で、予備校との連携によるハイレベル講座の実施は、そのきっかけともなる。

### (3) 学習支援環境の活用

生徒・保護者からの要望もあり、放課後の自習時間を延長した。教員は当番制で居残り生徒の担当をするようにした。自習室、ラーニングコモンズルーム、食堂、図書館など、生徒のニーズに応じた自習環境を用意できている。

## 4. 事業計画

### (1) 校舎整備

建物の老朽化、劣化が進む部分の改修について、資金収支の状況に照らし中長期工事計画を策定し、工事計画の再見直しを行った。2022年度以降は、震災復興工事における借入金の返済が終了したことにより、外壁改修の工事を5期に渡り計画しているが、生徒数減少による学納金収入の減少、資材の高騰、光熱費の高騰等の社会的な背景も大きく影響し、資金収支との関係で今後の工事計画の再見直しも必要な状況にある。

### (2) 人件費適正化計画

収支差額の赤字の原因は、在籍生徒数の減少と年齢とともに上昇する教員の給与の支給基準にあることから、入学生の確保を目指す一方で、教員の賃金制度の改革を実行し、2022年度からは新給与制度による賃金に完全移行した。今後は、学校規模をどのように考えていくのかの検討と並行し教職員数の調整を行なうこと、人事評価を活用した給与制度の見直し等も検討していく必要がある。

### (3) 情報化に対応した環境整備

2016年度に中学教室、2017年度に高校教室に電子黒板を設置、特別教室も含めて、電子黒板の設置を完了した。また、2018年度には高1学年にタブレットを導入し、大学入試改革への対応、あわせてラーニングコモンズルームの開設によるアクティブラーニング型授業の推進を進めてきた。タブレットについては、2020年度の文部科学省のGIGAスクール構想の補助金を利用し、中学生全員分のタブレットを学校で購入し、生徒全員がタブレットを保持する環境を整えた。天候による警報休校の際や本校の中学入試・高校入試で生徒が登校しない自宅学習期間にも、タブレットを利用し、時間割通りの授業実施ができるように整備した。非常勤講師もオンライン授業に対応できる体制を整えた。個別保護者面談等でもオンラインの活用を進めていく。2021年度には中学棟教室のPCの更新工事を行った。2022年度には、高校棟のPCの更新工事を行った。2023年度以降順次、中学棟・高校棟のプロジェクターの更新工事を行う必要がある。

### (4) 教員研修の実施

教員研修を①大手塾講師による①「中学受験における親和の現状」②「保護者アンケート結果分析と改善に向けてのグループワーク」③「保護者との円滑なコミュニケーションのとり方」④「市民救命士講座」⑤「観点別評価について」の5回実施した。今後は、生徒に対するモラハラ・パワハラ、部活動における適正な指導等に関する教員研修が必要である。

### (5) 海外研修プログラムの充実

英語4技能の向上、強まるグローバル化への対応の両面から、海外研修旅行を例年通り計画していたが、夏のオックスフォード英語文化研修はコロナ禍の影響で中止となった。アジアへの異文化探究研修は国内英語キャンプとして代替研修を行った。3月実施のニュージーランド研修、メルボルン研修は、4年ぶりに実施できた。国際コース以外の生徒が長期個人留学に行くケースが増えている。今年度は2名留学中である。そのような生徒への情報提供や手続き補助も国際教育委員会の業務となってきた。

## 学園財政の再建

### 1 財政の健全化

前年度に引き続き、第3次財政改善計画を検証し、第3次10年構想5か年計画に基づいて、より一層の経営基盤の安確保に努めるため、次の財政基盤の強化の方策に取り組んだ。

#### (1) 財政基盤の強化の方策

##### ① 収入面

適正な学生生徒等の確保について

##### 【大学】

ア 共学への移行及び入学者の確保

(ア) 共学への移行の決定及び準備

(イ) 共学への移行、校名変更に対応した多様な広報活動

(ウ) 広報に関する方針

- ・トリプルメディア（オウンド、ペイド、アード）の活用は、夏のオープンキャンパスに周知のピークを迎えるように展開した。

\*以上の取り組みを行うことで、2023年度は国際文化学科63名、心理学科75名、児童教育学科192名、スポーツ教育学科137名 合計467名の入学者を迎えることができた。

イ 2023年度に向けた教学改革

(ア) キャリア教育

- ・キャリアデザインのため必修科目「ワーク&ライフデザイン」「ワーク&ライフデザインⅡ」を設置

(イ) 実践教育プログラム『SAIL』の設置

(ウ) 日本語コミュニケーション科目（留学生対象）設置

##### 【中学・高等学校】

ア 入試改革

(ア) 多様性選抜入試、プレゼン入試、英語資格入試の実施

(イ) 従来型入試での総志願者の減少

イ ICT教育の推進

ウ グローバル教育の推進

エ 教育改革

(ア) カリキュラム改訂の実施

(イ) 学習指導要領改訂や大学入試改革への対応及び改善の実施

##### ② 支出面

ア 支出構造の見直し

(ア) 人件費の抑制

文部科学省 学校法人運営調査の指導等により、教職員数の適正化、期末手当・入試手当等の見直し、業務の合理化・効率化（業務のデジタル化を含む）等の人件費削減に取り組んだ。

(イ) その他

施設管理計画、委託・派遣業務、スクールバス運行の見直し  
経費削減に向けての教職員の意識改革

以上のように財政改善に取り組んできたが2022年度において下記の状況となった。

##### ① 事業活動収支差額比率

「学園全体：△13.9%（前年度△8.4%）」「大学単独：△19.1%（前年度△11.7%）」

##### ② 人件費比率

「学園全体：68.4%（前年度67.0%）」「高中単独：67.4%（前年度70.8%）」

##### ③ 教育研究経費比率

「学園全体：34.6%（前年度33.0%）」「大学単独：39.1%（前年度33.0%）」

##### ④ 人件費（退職金を除く）

## ②2022年度事業計画の進捗・達成状況

### 神戸親和女子大学

#### 1. 教務関係

- (1) 共通教育カリキュラム…情報リテラシー科目の充実
- (2) 国際文化学科…情報コミュニケーションコースの開設、新規民間資格の設置「上級情報処理士」「プレゼンテーション実務士」

#### 2. 国際交流関係

- (1) 海外の大学、他教育機関との交流  
2023年度はホーチミン市師範大学から2名の交換留学生の推薦があった。
- (2) 海外研修・留学  
2022年度海外研修は、秋学期研修「海外芸術・教育研修」(18名参加)、「海外心理学研修」(6名参加)、長期研修の「特別派遣留学(カナダ)」(1名参加)、「特別派遣留学(韓国)」(1名参加)は実施した。  
また、本学協定大学であるソウル女子大学提供の「オンライン短期集中韓国語プログラム」(単位配当なし)を実施し、1名が参加した。
- (3) 外国人留学生
  - ①新入学の留学生に学生生活指導実施(4月および日本入国時)
  - ②2023年度も新型コロナウイルス感染症拡大により外国人留学生に影響があった。2023年度入学の留学生(国際文化学科29名、心理学科14名、児童教育学科3名、スポーツ教育学科2名、大学院教育学専攻3名、科目等履修生(3+1と3+3)15名)のうち、10名が入国制限措置が取られた時点で入国。それまではオンライン授業を提供する。

#### 3. 地域交流・子育て支援関係

- (1) 公開講座  
2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、春学期・秋学期ともに対面・オンライン・ハイブリッド(Zoomと対面)形式をとり、情勢によりオンライン形式に切り替えての実施も案内しながら実施した。
- (2) 地域交流
  - ①地域交流プログラム  
2021年度に続き、2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどのプログラムが中止となる中、毎年1,000人規模の動員がある「第15回 キッズオープンキャンパス」は、コロナが落ち着いた2022年10月15日(土)に、感染症拡大予防対策のため、予約制、午前・午後の二部完全入替制で開催した。参加学生約100名は5月エントリーから準備を進め、定員一杯の約600名の応募者(第1部約300名、第2部約300名)の来場者を迎え実施した。
  - ②神戸市北区との協力プログラム  
「きたきたまつり」はじめ、ほとんどのイベントが2021年度に続き、2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。そうした中、2022年10月1日(土)北区役所においてワークショップイベント「ダンボールで北区をつくろう」を開催した。児童教育学科須増講師と学生14名が、午前(児童8名と保護者)と午後(児童15名と保護者・児童館職員)の2回ワークショップを行い、できあがった作品は、北区役所があるベルスト鈴蘭台3階イベント広場で展示された。
  - ③ふれあい喫茶  
高齢者の閉じこもり予防として、社会福祉法人神戸市社会福祉協議会と連携して、毎月第1水曜日に「ふれあい喫茶」を開催して来た。2022年度は第1水曜日9回(5・8・1月を除く)実施し

た。そのうち、7月は児童教育学科権藤ゼミが「水引細工で工作しましょう」を参加者と一緒に行った。

(3) 学生ボランティア

2022年度も新型コロナウイルス感染症の影響で限られた活動はあったものの、厳しいコロナ対策の中での活動となった。

(4) 子育て支援ひろば『すくすく』

2008年1月に本学と神戸市が連携して開設した「子育て支援ひろば『すくすく』」も15年以上経ち、地域の方々に支えられ、延べ66,000人の親子に利用いただいた。学生ボランティアも延べ10,200人を超え、コロナ禍でも可能な限りの活動を行っている。また、「神戸市健康局健康企画課」、「およこふらっとひろば北」と連携した離乳食セミナーや、同志社大学赤ちゃん学センターと連携した子どもの聞こえに関する講習など、利用者のニーズに即した講座を行った。

(5) 大学コンソーシアムひょうご神戸の学生交流委員会

2022年度は学生交流委員会の副委員長校（委員長校は神戸常盤大学）としてその任に当たり、委員会が実施した取組1 WILL BE プロジェクト「テーマ型の学生交流プロジェクト」に本学学生が参加し優秀な成績をおさめた。

(6) K S スポーツクラブ

K I D S スポーツ教室では、各クラブ生が小・中学生または高校生を対象に、スポーツ指導を通じて交流を深めて来たが、2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんど活動ができなかった。

(7) 第1回北区ジュニアスポーツフェスティバル開催

NPO 法人親和スポーツネットが主催者となり、本学の学生有志が実行委員会を構成し計画から実行までを行った。こどもたちが多くのスポーツに触れ、体験できるイベントとして開催。メジャーなスポーツだけでなく、多くの競技に触れ合うことができ、地域のこどもたちに体験してもらえる機会を提供することを目的として、全9種目のうち午前、午後に分かれて複数のスポーツを体験してもらい、体験プログラムを実施した。参加者は112名、学生ボランティア99名の学生が競技指導にあたった。また、江崎グリコ株式会社様も協賛していただいた。

## 4. 学習教育総合センター関係

(図書館)

(1) 年間の開館日数は、277日、入館者数は29,284人、貸出冊数・貸出人数は4,405冊・2,105人であった。

(2) 資料は、図書・製本雑誌・視聴覚資料 計853件を受け入れた。

(3) 学術情報の提供としては、当館からの依頼（当館利用者の他館資料利用依頼。照会を含む）25件、他館からの受付403件の処理を行った。また入手可能な資料はできるだけ購入して当館利用者に提供した。

また、2022年度より国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの参加館となり、資料の閲覧・複写サービスを提供している。

(4) 研究成果の保存と公開促進のため、本学紀要論文を刊行後速やかに本学リポジトリで公開した。

(5) 環境整備としては、利用者が資料を探しやすくするため、引き続き書架の配架調整を行った。また蔵書点検で複数回不明だった資料や、重複資料・破損資料などの除籍を学習教育総合センター運営委員会の了承を得て行い、配架スペースの確保に努めた。なお閲覧席は感染症対策のため席数を制限して提供した。

(6) 広報・利用促進活動としては、開館期間中は毎月テーマを選定して展示を行い、ホームページでも発信をした。また利用者教育として、感染症対策に留意しながら、全1年次生に対し必修科目「基礎演習」内で図書館ツアーを行った。

また、主に3・4年次生対象の「文献情報検索講座」では6ゼミ174名に対して実施し、個人講座も9件の申し込みがあり実施した。

また、「文献情報検索講座」の一環として、教員や大学院生対象に行っている「EBSCO利用講習」も大学院生15名、教員2名の参加があった。

## (情報処理教育・ITサポート)

- (1) 必携化オリエンテーションを全2022年度生に、実施した。内容は、パソコンを必携する目的、学内での利用ルール、学内ネットワークへの接続などである。
- (2) 遠隔形式・対面形式に関わらず、全授業において教材・資料や課題、提出物のデジタル化を進める大学方針の下、教員・学生のサポートを行った。
- (3) 学内のネットワークとサービスの安定運用を目的とし、重要サーバーの更新の第1期計画を実施した。更新にあたっては、VMサーバーを導入した。
- (4) センター講座  
2021年度は、「MOS(Excel)講座」や「ITパスポート講座」などをハイブリッドで実施していたが、オンデマンド型での開催を望む声が多く、2022年度からは、大学生協のWeb資格対策講座を推奨することとした。成果については、今後検証していく。
- (5) ICT活用を継続・推進するための情報環境整備【継続】
  - ・遠隔授業において、Microsoft365のTeamsを全授業で活用できるよう整備。
  - ・Office無料配付を実施。Microsoft社の制度を利用し、学生の個人PCへのOfficeの無料の配付を行っている。

## (ラーニングコモンズ)

春学期は、「英検ゼミ」を7回、「文献検索講座」「EBSCO利用講習」を実施。秋学期より、以下企画を実施した。

- ・「英語検定2級筆記対策講座」6回
- ・「EnglishOnlyCafé」5回
- ・「英語なんでも相談室」
- ・「ICTスキルアップ講座」4回
- ・英語多読本活用イベントとして「しんわ洋書の森スタンプラリー」を図書館と共同で実施。
- ・年間開室309日(内、対面窓口160日、Zoom窓口68日)開館。

## 5. 国際教育研究センター

- (1) 国際教育フォーラム  
2022年度の国際教育フォーラムは新型コロナウイルス感染症の拡大により開催されなかった。
- (2) 夏季オンライン英検準1級・2級+TOEIC勉強会  
国際教育研究センターが中心となり、夏休み期間を利用し2022年8月に3回、Teamsを用いて互いに不明な点を確認し合いながら学生間で教え合うことで英語の理解を深めることを主たる目的としたオンライン英検準1級・2級およびTOEIC勉強会を行った。
- (3) オンラインリレー講座  
国際教育研究センター主催で2022年度は3回、ゲスト講師を招いてオンラインリレー講座を開催した。
  - 第1回(2022年8月8日)
    - 「TOEIC® Listening Part 2(応答問題)を利用して英会話力を鍛えよう！」
    - 講師：横山仁視先生(京都女子大学)
    - 「TOEIC Bridge® Listening & Reading Testsを活用して英語力UPを目指そう！」
    - 講師：金田直子先生(京都女子大学)
  - 第2回(2022年12月15日)
    - 「小学校外国語の読み書きの指導におけるICTの活用の可能性」
    - 講師：近藤暁子先生(兵庫教育大学)
  - 第3回(2022年12月22日)
    - 「洋楽の聞き取り練習と英語圏のクリスマスの風習」
    - 講師：山縣節子先生(フリーランス)
- (4) オンライン外国語教育研究会  
担当授業等で実践している教育活動の成果を発表し、教育内容及び指導方法を高め合うことを目的とする研究会を2022年12月18日に開催し、英語教育や日本語教育といった言語分野の異なる研究者が集い、研究領域の近年の動向や注目するトピックの情報交換を行った。

(5) 国際教育研究センター紀要

2022年度に国際教育研究センター紀要第7号を発刊。次号は2024年度に発刊予定。

## 6. 研究成果

- (1) 「神戸親和女子大学 研究論叢 第56号」
- (2) 「神戸親和女子大学大学院研究紀要 第19号」
- (3) 「児童教育学研究 第42号」
- (4) 「スポーツ教育学科紀要 9号」
- (5) 「心理相談研究紀要 第21号」
- (6) 「教職課程・実習支援センター研究年報 第6号」
- (7) 「国際教育研究センター紀要 第7号」

## 7. 入試関係

(1) 2023年度の入試結果

2023年度入試では、昨年の結果(243名)が過去に例のないものであったことも含め、大学として大きな変革を行った年度となった。定員385名に対して、昨年同様少子化による影響を受けてきたが、入学者数が467名と昨年に比べ大きく上回る結果となった。充足率は121%となった。

このような結果となった主な要因は、①総合型選抜スポーツ入試での学生確保、②学校推薦型選抜指定校・協定校入試での学生確保、③男子学生の確保だと考える。

- ①総合型選抜スポーツ入試は95名を確保。昨年の51名に比べ1.8倍となった。内訳は女子68名、男子27名。国際3名、心理5名、児教24名、スポーツ63名。
- ②学校推薦型選抜指定校・協定校入試は160名を確保。昨年の71名に比べ2.2倍となった。内訳は女子122名、男子38名。国際17名、心理22名、児教73名、スポーツ48名。
- ③男子は全体で158名となった。また、女子も309名となり昨年の243名を上回ることができた。男女共学への進学意識が高いことが伺える。

このような結果となったが男女共学に変革していくことに地元の高等学校、卒業生からの理解があり、このような結果となったと考えられる。専願入試比率が約70%(326名)と高いが今後もこの傾向を取り入れて、年内入試での早期確保をめざしていきたい。

(2) オープンキャンパス

2022年度はコロナ感染を意識しつつも回数を2日程(5月21日・7月31日)増やす施策を行い、高校生、保護者と直接的な接点を持って大事に取り組むことを心がけ、「男女共学」に変革していくことを強調したオープンキャンパス(以後、OC)を実施できた。

新しいロゴを周知する意味合いと、一体感を感じて貰うことからお揃いのTシャツを着用して行い「インナーブランディング」も意識した。

来場者数については、初めて3月に実施したOCは参加者120名(生徒68名、保護者等52名)となり昨年の3月開催の200名を下回った。男子生徒も2名程度の参加となり、どうなることかと危惧しながらのスタートとなった。

その後の参加者は6月19日の開催から増え始め、男子生徒も多く参加するようになった。

昨年の6月～9月開催分の参加者数を比較すると下記の様になった。

昨年：1,081名(生徒:576名、保護者等:505名)

今年：1,898名(生徒:1022名、保護者等:876名)※7月31日含む

追加した日程5月21日は185名(生徒92名、保護者等93名)、7月31日は374名(生徒187名、保護者等153名)となった。

追加して行ったことも功を奏し昨年比約2倍の来場者を獲得できた。

まだまだ、課題はあるが次年度に向けて、さらに多くの高校生に本学の良さを知ってもらうため、昨年度同様の回数に加え、「入試個別相談会」も回数を増やして直接的な接点を求める施策を行う。

## 8. 就職関係

- (1) 教職課程・実習支援センターでは、教職をめざす学生への実習指導や、キャリアセンターが行う講座以外に教員採用試験対策セミナーを3年次より実施し、教職への就職を支援している。公立教員採用試験合格者数は小学校70名、中学校(国)2名、特別支援学校5名であった。公立幼稚園教諭・保育教諭・保育士採用試験合格者数は14名であり、私立を含む幼稚園・保育園・認定こども園・児童福祉施設に就職をした学生は92名で100%就職先が決定した。
- (2) キャリアセンターでは、一般企業や公務員、福祉施設を希望する学生に対してもガイダンスや多くの行事・講座において就職活動をサポートしている。個人面談等、きめ細かいサポートを行うことに特に力を注いでおり、教採・教育関係への就職を除いた一般企業等への就職状況は、業種別に、卸小売業、福祉関連施設、スポーツ施設、金融業、情報通信業への就職率がここ数年上位となっている。
- (3) 厚生労働省と文部科学省の共同調査(2023年2月1日現在)による2022年度「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」では、大学生の内定率は90.9%、新型コロナウイルスの影響もあったが、前年度同期より1.2ポイント上がっている。私立大学における内定率も89.8%であり前年度同期より0.6ポイント上がっている。本学の大学の2022年度の全体の就職率は98.1%となっている(2023年5月1日現在)。

## 9. 奨学金関係

- (1) 本学独自の奨学金制度を設けており、2022年度の実績は下表のとおりである。

(金額単位；千円)

奨学金制度の種類等		対象人数	給付・貸与金額
一般学生 を対象	授業料免除	4	3,480
	貸与奨学金	2	(注1) 1,740
	入学金免除(院)	8	3,480
	植田奨学金	0	0
	福祉特別貸与奨学金	2	800
	学習奨励・スポーツ奨励	100	40,195
	奨励奨学金、学長賞	25	1,390
	沖縄奨学金	1	120
	ファミリー・姉妹免除	10	4,040
	小計		152
留学生 を対象	所定の学習要件を充足した留学生に対する		
	授業料減免(大学院生)	28	2,768
	授業料減免(学部生)	76	18,990
	給付奨学金(大学院生)	10	2,400
	給付奨学金(学部生)	62	22,430
	住宅補助金	31	6,200
小計		207	52,788
総合計		359	108,033

注(1)2023年3月31日現在の貸与残高は35,585千円

- (2) 日本学生支援機構の奨学金については、貸与奨学金(無利子、有利子)および給付奨学金あわせて619名(延べ人数)が受給した。

## 10. 保健室関係

- (1) 定期健康診断
  - ① 受診者数 学生 1,299名 教職員 202名
  - ② 受診率 学生 96.3% 教職員 94.3%
- (2) 学生相談
  - ① 精神科校医、カウンセラー3名が心理相談に対応

- ② 学生相談室のPRを目的に、年1回(10月)イベントの実施
- ③ 学生相談室便りの発行
- (3) 保健室における応急対応  
年間利用者数 504名(その他コロナ関連対応 768名)
- (4) 教職員対象にインフルエンザ予防接種の集団接種実施  
接種者数 63名

## 1.1. 課外教育活動関係

- (1) 文化・学術・体育・ボランティア活動や大学祭など、多岐にわたる学生の自主的活動については、学生生活における自立性・社会性の育成、学生相互の啓発等、人格形成上の教育効果を期待し、振興している。2020年度から発生した新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言の発出等もなくなり、課外活動の大会等は観覧などの制限をかけながら徐々に開催される傾向となった。しかしながら文化総部の課外活動への参加学生が減少しており、部員数が少なく継続できず、廃部となるクラブも出てきている。
- (2) 体育総部の課外活動団体競技では、観覧などの制限はあるものの大会が開催される傾向となった。

- ◆ 全日本大学選手権大会出場 - バレーボール部 - ベスト4
- ◆ 全日本相撲選手権大会 - 相撲愛好会(長門美咲) - 個人戦中量級 第3位
- ◆ 西日本大学選手権大会出場 - バレーボール部 - 準優勝
- ◆ 関西学生リーグ戦
  - 春季リーグ戦
    - ◇ バレーボール部 - 1部 優勝
    - ◇ サッカー部 - 2部 第3位
  - 秋季リーグ戦及び代替大会
    - ◆ バレーボール部 - 1部 準優勝
    - ◆ ソフトボール部 - 2部優勝 1部昇格
    - ◆ サッカー部 - 2部 4位
    - ◆ バasketボール部 - 2部 7位
    - ◆ ソフトテニス部 - 3部優勝 2部昇格
    - ◆ バドミントン部 - 4部優勝 3部昇格
- ◆ その他の大会
  - ◆ バレーボール部
    - 第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」 第5位
    - 近畿6人制バレーボール女子総合選手権大会 準優勝
    - 関西大学バレーボール女子選手権大会 準優勝
    - 兵庫県バレーボール大学男女選手権大会 優勝
  - ◆ 剣道部
    - 兵庫県学生剣道新人戦 第3位
  - ◆ 相撲愛好会
    - 国際女子相撲選抜堺大会(長門美咲) 優勝

## 1.2. 通信教育部

- (1) 入学者数及び科目等履修生在籍者数
- ① 2022年度入学者数

	4月入学	10月入学
児童教育学科	27	11
計	27	11

- ② 科目等履修生在籍者数 212名  
内訳：協定26大学102名、本学通学部33名、一般4月入学47名、履修証明プログラム1名、一般10月入学30名

## (2) スクーリングの開講

期間：2022年4月～2023年2月

(全科目について、新型コロナウイルス感染予防対策をとりながら、対面で行うスクーリングを鈴蘭台キャンパスで実施した。コロナ禍では授業時間を1回90分から70分に短縮(短縮分は課題等を課した)していたが、2022年度は通常どおりの時間割に戻した。

開講日数：86日

開講科目数：延べ96科目

受講者数：延べ1,215名

## (3) 科目修了試験の実施

期間：2022年4月～2023年2月

(2022年度は主として鈴蘭台キャンパスで実施し、月によっては岡山、又は広島、又は大阪の学外会場でも実施した。)

実施回数：12回

受験者数：延べ2,489名

## 1.3. 大学評価関係

2021(令和3)年度、公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)において、大学基準に適合しているとの認定(2029年3月31日まで)を受けた。

今年度は認証評価結果への対応を盛り込みながら、大学評価委員会において検証を行った。また、自己点検・評価報告書をホームページで公表した。

昨年度に続き、IR推進委員会を中心に、学修行動調査および満足度調査において、共通する調査項目を用い、学修行動・学修成果の把握をディプロマ・ポリシーで定める能力に結び付け、学生にフィードバックする取り組みと、ルーブリックによる学修到達度の調査を実施した。

## 1.4. 附属親和幼稚園

認定こども園として長時間保育を実施していく上での解消されていない課題もあるので、引き続き課題を明確化し、全員の課題として取り組んでいくことが大切であると考えている。経験年数の浅い職員が多いので、情報・課題を共有し、保育の中で活かしていくため具体的な場面を通してケース会議をしていく研修であったり、資質向上につながる研修であったり、などの工夫が今後も必要になっている。まずは子どもの安心・安全な生活が出来る環境、居心地の良い環境となるよう今後も一層の努力をしていきたい。

今年もコロナ対策をしながらの保育や行事を実施してきた。規制のある中でも、工夫しながら子どもたちが力を発揮できる内容を計画し、自分たちで考えたり、工夫したりできる環境を作り、友達と関わる楽しさや達成感を味わえるよう取り組んできた。

保育内容では、昨年度から引き続き異年齢保育を年長・年中で取り組み、刺激を受け合ったり、憧れの気持ちを持ったり、責任感や自覚が芽生えたりと同年齢ではできない経験をしたり、気持ちを味わったりすることが出来た。今後は組み合わせを変えながら、いろいろな形での異年齢保育にも取り組んでいきたい。

教員の資質向上につながる研修では親和3園での保育参加を基本とした合同研修会は昨年に引き続き継続し、他園を知ることで自分自身の保育を見直す良い機会となった。三田市内の公開保育研修会にも積極的に参加するようになってきた。また、園内での研修を自分たちで企画し実施することで、自ら研修に携わる機会となり受け身の状態から少し変化できたのではないかと感じている。研修の機会を増やすことで学ぶことの大切さ、保育を創造していく刺激となってきたと感じている。学びやすい環境研修方法の工夫をしていくことが資質向上につながっていくと考えられるので、今後も積極的に研修が進めていけるよう全員で取り組んでいきたい。

## 親和女子高等学校・親和中学校

### 1. 新規及び重点計画

#### (1) 教育改革（制度改革・Sコース改革）

前年度に方向性が示されたSコース改革は、2022年度から中学において、2年生から2クラスあるSコースを3クラスに分割、少人数編成とし、上位クラスをSa、その他の2クラスをSbとして実行した。教育効果は上位クラスで顕著に表れており、レベル別のクラス編成の効果が実証された。2024年度のコースの改編について、理系強化の方針を打ち出し、理数教育と探究学習を軸としたスーパーサイエンス、スティーム探究、国際理解、他者理解を通じ人間力・総合力を高めるグローバル探究の3コースを設置することを意思決定した。これに付随し、それぞれのコースを生かす特別教育プログラムの設置や研修旅行の検討、学校行事の意義と見直し（スクラップとビルト）、部活動と学業のバランス、キャリア教育など過去の内容や方法にとらわれない新しい制度をつくりあげていくことで「新しい親和らしさ」につなげていくことが求められている。

#### (2) 入試制度改革・広報活動の推進

2022年度中学143名入学という非常に厳しい募集結果となったことを受けて、広報イベントの積極的な実施ときめこまかい対応をモットーに募集活動を展開した。塾との情報交換も積極的に行い良好な関係も維持できたこともあり受験生は増加した。また、入試制度改革では、国語一教科入試、後期Ⅲ入試も新規実施し、受験者増加、入学者の確保に一定の効果は得られた。また、多様性が求められる時代背景を受けて、自己アピールによるプレゼン入試や海外帰国子女入試、英語資格入試など、多様性選抜入試にも注力し20名の入学生を確保した。

#### (3) 強化クラブ

強化クラブに指定したバレーボール部は、中学・高校ともに大会等で好成績をあげた。また、今年度より新たに強化クラブに指定したバドミントン部も好成績を上げている。両部とも中学はプレゼン入試、高校は特進Bコース入試で入学してくる生徒が大多数である。奨学金対象の生徒もいるが、総合的に判断すると強化クラブの存在価値はあると言える。

#### (4) 国際コースの充実・英語力の向上

2020年度入学の国際コース1期生10名が卒業した。コロナ禍で遅れた中長期個人留学を経験した生徒もいるが、留学を断念した生徒もいた。大学進学実績は好調で、国公立大学を始め難関私大に多数進学した。総合型選抜や推薦入試で合格を決める生徒が大多数で、国際コースのカリキュラム設定が問題なかったことが証明された。高校2年生の3名は、全員が半年留学を終え、英語力を飛躍的に伸ばした。高校1年生の7名中、3名が現在長期留学中であり、残りの生徒も夏から留学予定である。

一方でコロナ禍における交流について、中国の提携校とのオンラインでの相互交流も行なった。新しい交流スタイルとして定着させていきたい。

英語4技能対策の一環として、タブレット端末により、高校1・2年にオンライン英会話の授業を行っている。校内での英語教育に注力するために、談話室の場所を改装し「イングリッシュルーム」を設置している。イングリッシュルームには、ネイティブ教員2名が常駐し、英語運用能力のさらなる向上を目指す生徒や帰国子女等の英語力維持に役立っている。

また、中学で取り組んでいる英会話(ECC委託事業)について、英検資格等の取得状況も検証し、評価する。

#### (5) 受験対策の強化

2021年度から、進路指導部が主体となり、中学生対象に英語ハイレベル講座を開講した。予備校連携により、目標や取り組み方を丁寧に説明し、希望者から成績上位者を選抜し実施する。受験対策として教科を増やし、数学でも実施を開始した。実施学年も高校2年生まで拡大する計画である。一方で、学力伸び悩みが課題となる生徒への学習支援のためには、「親和ゼミ」を開講し対策を講じている。

#### (6) 「探究」授業の充実

Sコースで実施していた「探究」授業を、大学入試改革に伴い、高校総合進学コースでも実施し、大学入試で求められる主体性・多様性・協働性への対応を図った。

他の高校生も参加する外部発表会に参加し、生徒たちの取り組み方を検証させる機会となった。探究に関する丁寧な指導と生徒の自主的な研究力もあり、生徒のプレゼンテーションのレベルは向上している。

専門部として新規設置した「探究推進部」は効率的に機能しており、今後のさらなる探究学習の充実が期待できる。また、三菱みらい財団の助成金の獲得に成功し、資金的にも探究学習発展に寄与した。将来的には「理数探究」を核とし、「スーパーサイエンスハイスクール」指定校を目指す。

## 2. 教務関係

- (1) コース制・取り組み
- ・Sコース：講習（夏期・春期）、探究授業、文理選択（高2）
  - ・総合進学コース：講習（希望制）・補習（一部指名）、文理選択（高2 理Ⅰ・理Ⅱ、文Ⅰ・文Ⅱ）、総合探究（高71～）
  - ・高校特進コース：講習・補習、1時間増加単位（高1）、文理選択（高2 理Ⅰ・理Ⅱ、文Ⅰ・文Ⅱ）、総合探究（新規 高1～）
  - ・国際コース：毎週、留学ガイダンスを実施
- (2) 教育実習生受入 事前学習や事後学習を時間数にカウントし、生徒に接する期間を縮小し、例年と同様の実習ができるよう、工夫対応した。

## 3. 国際理解・国際教育関係

- (1) オックスフォード大学英語・文化研修→新型コロナウイルス感染症により中止。
- (2) メルボルン短期交換ホームステイ→中学3年生Sコース希望者対象で3月に実施。
- (3) ニュージーランドホームステイ研修→中学3年生Sコース希望者対象で3月に実施。
- (4) 米国サイエンスツアー→希望者不足のため不成立。
- (5) カナダフィールドストーン校長期留学（1年）→派遣停止中。
- (5) 異文化探究研修→国内英語キャンプの形式で7月に実施。
- (6) エール大学学生によるアカペラコンサート・交流会→新型コロナウイルス感染症により中止。
- (7) 東北師範大学附属中学の生徒受け入れ（2月）→新型コロナウイルス感染症により中止

## 4. 研修旅行関係

- (1) 高2 研修旅行 シンガポール・マレーシアの予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、行き先を北海道に変更し実施。
- (2) 中3 宿泊旅行 予定通り実施（沖縄）。
- (3) スキー訓練 信州志賀高原 一ノ瀬スキー場 3月実施

## 5. 部活動（クラブ活動）

全校生の約55%が文化クラブ、約25%が体育クラブに所属し、中学生と高校生が一緒になって、部活動（クラブ活動）に取り組んだ。強化クラブ（バレーボール部、バドミントン部）の躍進が顕著である。

器楽部	親善音楽会 第8回バレンタイン・オーケストラコンサート 兵庫県高等学校総合文化祭 第21回定期演奏会
ギター部	全国高等学校ギターマンドリン音楽コンクール 努力賞
コーラス部	【高校】NHK 全国学校音楽コンクール兵庫県大会 銅賞 兵庫県合唱コンクール 金賞 国際声楽コンクール東京 第1位 【中学】NHK 全国学校音楽コンクール兵庫県大会 銀賞 兵庫県合唱コンクール 金賞 関西合唱コンクール 銅賞
書道部	全国高等学校総合文化祭 兵庫県代表(1名)優秀賞(2名)特選(1名) 兵庫県高等学校選抜書展書道展 選抜賞 国際高校生選抜書展 秀作賞(1名)入選(6名) 全国書道展新温泉町教育長賞 みなぎの書道展 鍛心賞 さざんか賞 奨励賞
ハンドボール部	兵庫県高等学校総合体育大会ベスト8
バレーボール部	【高校】兵庫県総合体育大会ベスト16 近畿大会出場 秋季リーグ戦2部昇格 神戸市新人大会3位 兵庫県新人大会ベスト16 【中学】神戸市新人大会優勝 県大会出場

	神戸市優勝大会優勝 県大会出場
ソフトボール部	【高校】兵庫県高等学校総合体育大会 出場 神戸市高校女子大会秋季大会 出場 【中学】近畿私立中学校大会 出場 神戸市中学校選手権大会 出場
バドミントン部	【高校】神戸市高等学校総合体育大会 団体優勝 シングルス優勝 ダブルス優勝 神戸市高等学校新人戦 団体優勝 シングルス優勝 ダブルス優勝 近畿高等学校選手権大会出場 【中学】神戸市総合体育大会 団体優勝 シングルス優勝 兵庫県中学校総体 シングルス ベスト8 ダブルス ベスト8

西村佳世	全日本ジュニアテニス選手権 (16歳以下) シングルス優勝 全日本ジュニア選抜室内テニス選手権 (16-18歳) シングルス優勝 毎日オープンテニス選手権 (プロ選手混在の一般大会) シングルス準優勝 *史上最年少 ITF World Tennis Tour W15 MONASTIR (プロ選手中心の一般大会) チュニジア開催 シングルス準優勝 全国高校総体 シングルス ベスト16 近畿高等学校選抜テニス大会 シングルス優勝 兵庫県高校総体 シングルス優勝 関西ジュニアテニス選手権 (16歳以下) シングルス及びダブルス優勝 兵庫県春季ジュニアテニス選手権 (16歳以下) シングルス準優勝・ダブルス優勝 北信越テニス選手権大会 (プロ選手混在の大会) シングルス準優勝
宮岡心優 (クラシック バレエ)	Japan Ballet Competition Grand Championship 2022 (全国大会) クラシックバレエ部門 (高1～2) 第7位 Youth America Grand Prix 2023 に選出 ジュニア部門クラシック女性 Top12 に選出 → Youth America Grand Prix 2023 FINAL 出場

## 6. ボランティア関係

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| (1) ワークキャンプ (福祉体験学習) | → 中止              |
| (2) 市民救命士講習会         | → 2学年で実施          |
| (3) 募金活動             | → NHK 海外助け合い募金に参加 |
| (4) 献血協力キャンペーン       | → 文化祭で実施          |
| (5) 青少年赤十字活動 (JRC)   | → 参加              |
| (6) 保育体験             | → 中止              |
| (7) 看護介護体験           | → 中止              |
| (8) [灘区との協定]         | → 実施 (児童館、こども食堂)  |

## 7. 公開行事

- |         |                                |
|---------|--------------------------------|
| (1) 文化祭 | → やや規模を縮小したが、校内文化祭・公開文化祭共に実施。  |
| (2) 体育祭 | → 午前との部と午後との部に分けて縮小実施。         |
| (3) 音楽会 | → やや規模を縮小したが、校内音楽会・公開音楽会ともに実施。 |

## 8. その他特別な活動

- |          |  |
|----------|--|
| (1) 英語検定 | → 実施外部での個人受験を推奨                          |
| (2) 芸術鑑賞 | 高校2年生 10月16日 天満天神繁昌亭<br>中学生 1月16日 狂言鑑賞教室 |

## 9. 進路指導

(1) 総括

2023 年春の合格実績は下表のとおり（既卒者含む）。

2022 年度卒業生数は 168 名、そのうち国立大学進学者は 10 名（前年度 11 名）、公立大学進学者は 5 名（前年度 9 名）、関関同立大進学者 37 名（合格数 77 名 進学者前年度 45 名）であった。

大学入学共通テストの出願者は 127 名（前年度 137 名）であった。

合格率で見ると、国公立受験者 84 名（前年度 97 名）、合格者 17 名（前年度 21 名）で合格率は 20.2%（前年度 21.6%）、関関同立大の出願数は 231 名（前年度 221 名）、合格者 77 名（前年度 88 名）という結果であった。

また、大学入学共通テストの平均点（得点調整後）は、900 点満点で、文系:全国平均点(河合塾予想)が 530 点、本校平均点は 503 点。理系:全国平均点 548 点、本校平均点は 501 点。全国平均を下回る成績であったが、本人の希望進路実現に向けて強い気持ちの出願者も多く最後まで健闘した。共通テストの平均点が全国平均に比べ低かったことは、対策等の徹底など課題を整理する必要がある。なお、神戸親和大学への進学者は、4 名（前年度 5 名）であった。

(2) 2023 年度入試大学合格実績（含既卒者）

2023.3.28 現在

大 学 名		合格者数
国立 大学 国立 大学	お茶の水女子大	1
	東京外国語大	1
	富山大	1
	京都工芸繊維大	2
	大阪大	4
	大阪教育大	1
	神戸大	1
	奈良女子大	2
	岡山大	1
	徳島大	1
	香川大	1
琉球大	1	
<b>国立大学計</b>		<b>17</b>
公立 大学	神戸市看護大	1
	兵庫県立大	3
	奈良県立大	1
	公立鳥取環境大	1
	岡山県立大	1
	広島市立大	1
<b>公立大学計</b>		<b>8</b>
<b>国公立大学合計</b>		<b>25</b>

大 学 名		合格者数
私立 大学	神戸親和大	5
	同志社大	19
	立命館大	18
	関西大	20
	関西学院大	35
	北里大	1
	実践女子大	2
	多摩美大	1
	東海大	8
	東京女子大	2
	東京農大	1
	日本獣医生命大	1
	立教大	1
	愛知学院大	2
	名城大	4
	京都薬科大	4
	大阪医科薬科大	2
	神戸薬科大	12
	兵庫医科大	7
	関西医科大・医・医	1
	甲南女子大	7
	神戸女学院大	10
	武庫川女子大	14
	神戸女子大学	7
	同志社女子大学	5
	京都女子大学	14
	近畿大	49
甲南大	17	
龍谷大	11	
神戸学院大	18	
摂南大	9	
大和大	1	

海外大学	6
専門学校	6（うち医療系 4）
短期大学	3

京都産業大	5
大阪工業大	4
大阪産業大	6
関西外国語大	7
その他	49
<b>私立大学等合計</b>	<b>379</b>

- (3) 進路説明会等                    大学別説明会 → 対面で実施  
(4) キャリア教育等                社会人講演会 → 講師が来校し、対面で実施  
(5) 大学共通テストプレ        (高3対象)

## 10. 保健衛生関係

- (1) 生徒健康診断の実施  
全校生徒対象 身体測定、聴力、X線、検尿、心電図、内科、眼科、耳鼻科、歯科  
(2) 教職員健康診断の実施 3月  
(3) 性教育講座の実施、保健に関する指導 (中学生対象)  
(4) 職員研修 AED 市民救命士講習会の実施  
(5) ゆうルームでのカウンセリング (カウンセラー4名、相談員2名で対応)

## 11. 図書館

- (1) 図書購入 (資料図書 軽図書 雑誌)  
(2) 図書館報 「親和図書館」1回発行 (読書感想文コンクール優秀作品特集号)  
(3) 図書案内 「図書館通信」中学生版・高校生版発行 (図書委員会発行)  
「ポップでBook」発行 (図書委員会発行)  
(4) 図書館での授業 (教科指導)  
(5) 図書館の資料を使った授業  
(6) 図書館内展示活動  
(7) 一般来訪者への案内 ミニミニオープンスクール、学校訪問者  
(8) 図書委員会活動  
「図書館通信」の発行、「ポップでBook」の発行、読書会、図書委員研修会への参加  
(9) 読書感想文コンクール  
・校内読書感想文コンクール (中1～高2) 開催  
・兵庫県私立学校 SLA 読書感想文コンクールへの参加および作品審査 (副当番校)  
(10) Digital Library の開館 (11月)

## 12. 生徒募集・入試結果

### (1) 中学入試結果

2023 年度入試は延べ出願者数が昨年度より増加したものの(734→801)、結果的には入学者は減少した(136)。学校経営上の目標としていた 170 を大きく下回る結果となった。

学校広報的には毎週土曜日の学校見学会をはじめ、説明会・相談会での感触は比較的良好、その結果もあって受験者を増やすことはできたのだが、実際の入学者増に繋がらなかった。

今年度入試では初日の午後に行われる前期Ⅱ入試 (適性検査型) と同じ時間帯に実施していた算数一教科入試に加え、国語一教科入試を実施した。適性検査型や算数一教科を好まない層にとっては、国語一教科は受けやすく受験生を集めた。国語一教科入試の新設には一定の効果があった。

また新たに後期Ⅲ入試を新設し、ここから最終手続き者が 10 名あり、この新設も一定の効果があった。

[2023 年度中学入試結果]

	志願者数	受験者数	合格者数(名)	入学者数(名)
--	------	------	---------	---------

		(名)	(名)	Sコース	総合進学 コース	Sコース	総合進学 コース
前期Ⅰ	Sコース	41	39	29	26	60	76
	総合進学コース	29	25				
適性検査型 (前期Ⅱ)	Sコース	70	70	62	10		
	総合進学コース	9	9				
算数1教科	Sコース	63	60	42	17		
	総合進学コース	13	13				
国語1教科	Sコース	87	83	25	70		
	総合進学コース	31	31				
後期Ⅰ	Sコース	104	99	61	63		
	総合進学コース	54	52				
後期Ⅱ	Sコース	175	161	109	60		
	総合進学コース	48	44				
後期Ⅲ	Sコース	38	25	17	10		
	総合進学コース	15	9				
英語資格 入試	Sコース	0	0	0	8		
	総合進学コース	8	8				
プレゼン入試	総合進学コース	13	13	0	13		
チャレンジ入試		10	10	5	4		
帰国子女特別入試		3	3	2	1		
合 計		811	754	352	282	60	76

## (2) 高校入試結果

「特進Bコース」と「国際コース」については、それぞれのコースの特色が理解され、一定数の入学者を確保できた。しかし、「特進Aコース」は入学のメリットのアピールが不十分で、受験者数の底上げができなかった。今後は、入試広報部内でメリットを共通理解し、相談会・説明会及び中学校・塾への訪問の際に、入試広報部全員が同じアピールをしていく必要がある。

### [2023年度高校入試結果]

	受験者数 (名)	合格者数(名)	入学者数(名)
高校1次入試	国際コース 専願	4	4
	国際コース 併願	10	10
	特進Aコース専願	3	3
	特進Aコース併願	15	15
	特進Bコース専願	16	16
	特進Bコース併願	2	2
高校1.5次入試	特進Aコース	1	1
高校2次入試	特進Aコース専のみ	1	1
帰国子女入試	特進Aコース専願	0	0
合計受験者数		52	52

## (3) イベントの実施状況と実績等

### ① 中学入試説明会

9/25 (土) 78組    10/23 (日) 50組    11/27 (日) 54組    計 182組

### ② 高校入試説明会

9/25 (土) 12組    10/23 (日) 4組    10/29 (土) 4組    11/27 (日) 11組  
12/3 (土) 9組    12/11 (日) 6組    計 46組

### ③ 中高入試 塾対象説明会

6/29 (水) 本校実施 6/30 (木) 三宮実施

臨時 塾対象説明会

10/21 (金) 本校実施 3/22 (水) 本校実施

#### ④学校見学会

原則毎週土曜日に午前・午後とも10組定員で開催

⑤サマーオープンスクール 7/31 (日) 午前・午後分散開催 計344組

⑥オープンハイスクール 10/8 (土) 27組

⑦おとうさんのための学校見学会 9/24 (土) 午前・午後分散開催 計19組

⑧適性検査型入試問題体験&解説会 9/10 (土) 23名

⑨プレテスト 11/3 (木・祝) 前期Iタイプ389名 適性検査型タイプ150名

⑩プレテスト追試 11/4 (金) (プレテストと学校行事が重なっている受験希望者対象) 22名

### 1.3. 汲温会 (同窓会)、育友会との連携

- (1) 汲温会主催の茶道・華道教室を実施 (毎週水曜日 汲温会館茶室)
- (2) 汲温会会員の指導による茶道教室を実施  
中学1年生対象 中学2年生対象 → ともに回数を減らして実施
- (3) メルボルン交換留学生の茶道教室を開催 → 交換留学中止により実施なし
- (4) 育友会 生徒活動支援(クラブ活動、文化鑑賞)
- (5) 育友会執行部との意見交換会を実施
- (6) 育友会奨学金の追加 コロナ禍で友國晴子先生記念奨学金への応募が多かったため、育友会から同額の奨学金支援をいただいた。
- (7) 育友会から「理数重点化教育」の用途用に寄付金を頂いた。

## 施設等の状況

### 1. 主な施設の取得・改修又は処分の状況

#### 1) 主な施設の取得関係

##### ◇ 神戸親和女子大学

- ① 大学仮想ホストサーバー／主要サーバー更新 ※5年リース (金額: 11,444千円)
- ② 大学課外活動用大型バス (日野セレガ) 一式 ※5年リース (金額: 6,362千円)
- ③ 大学附属親和幼稚園1階保育室他床暖房敷設工事 (金額: 5,335千円)
- ④ 大学1号館3階・331教室AVシステム装置 ※5年リース (金額: 4,629千円)
- ⑤ 大学事務用パソコン(HP ProDesk 400)30台 ※5年リース (金額: 3,584千円)
- ⑥ 大学附属図書館1階閲覧室トイレ改修工事 ※共学化関連 (金額: 2,950千円)
- ⑦ 大学附属図書館2階閲覧室トイレ改修工事 ※共学化関連 (金額: 2,750千円)
- ⑧ 大学構内サイン改修工事 ※共学化関連 (金額: 2,600千円)
- ⑨ 大学4号館1階男子トイレ改修工事 ※共学化関連 (金額: 1,850千円)
- ⑩ 大学クラブハウス1階男子トイレ改修工事 ※共学化関連 (金額: 1,800千円)
- ⑪ 大学1号館地階機械室冷温水ヘッド差圧用電磁弁更新工事 (金額: 1,650千円)
- ⑫ 大学1号館地階ロッカー室改修工事 ※共学化関連 (金額: 1,500千円)
- ⑬ 大学1号館1階保健室(休養室)改修工事 ※共学化関連 (金額: 1,350千円)
- ⑭ 大学玉結寮談話室軒裏天井補修工事 (金額: 1,079千円)

##### ◇ 親和女子高等学校・親和中学校

- ① 外壁改修3期工事「講堂・体育館棟及び汲温会館」 (金額: 66,107千円)
- ② 中学・高校生徒ロッカー更新に伴う改修工事 (金額: 1,755千円)
- ③ 高校棟普通教室PC機器更新工事 (金額: 3,685千円)

#### 2) 主な施設の処分関係

◇神戸親和女子大学

- ① 教職員寮「ハイランドミオ鈴蘭台」資産売却に伴う除却処分 ※全部除却
- ・資産番号 19421001-000 大学 土地 46.02㎡(土地) 取得額：6,209千円
  - ・資産番号 19422012-000 教職員寮 ハイランドミオ(建物) 取得額：25,889千円
- ② 附属図書館1階・2階閲覧室トイレ改修工事に伴う除却処分 ※一部除却
- ・資産番号 17622004-000 のうち鉄筋コンクリート造(一部)除却(建物) 取得額：341千円
  - ・資産番号 21320040-000 のうち電気設備(一部)除却(建物) 取得額：84千円
  - ・資産番号 21320041-000 のうち給排水衛生設備(一部)除却(建物) 取得額：318千円
- ③ 大学備品「ノートパソコン」他売却に伴う除却処分 ※全部除却
- ・資産番号 21820015-000 iPad Pro 1台(教：備品) 取得額：107千円
  - ・資産番号 21920020-000 FUJITSU FMV U9C3RDB 1台(教：備品) 取得額：140千円
  - ・資産番号 21920023-000 FUJITSU UH75 U7B3WD6 1台(教：備品) 取得額：120千円
  - ・資産番号 22020045-000 SONY VAIO SX12VJS1231 1台(教：備品) 取得額：238千円
  - ・資産番号 22120002-000 Apple Macbook Air 1台(教：備品) 取得額：103千円
  - ・資産番号 22220001-000 HoloLens 2 japanese 一式(教：備品) 取得額：346千円

◇親和女子高等学校・親和中学校  
除却等処分なし